

日立オーブンレンジ 家庭用

HITACHI
Inspire the Next

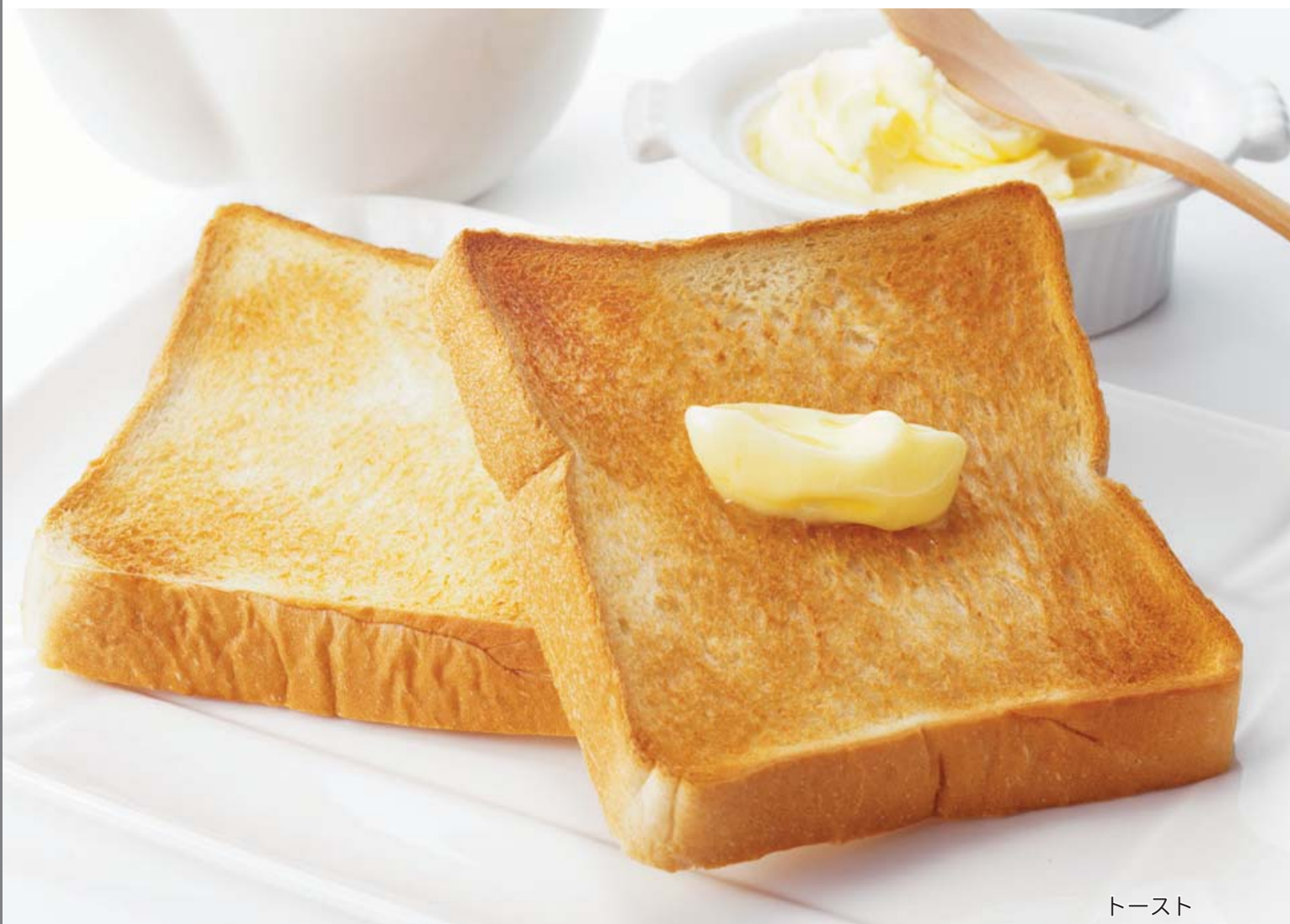


レッド (R)

エム アール オー エイチ イー ブイ
型式 **MRO-HE4V**

取扱説明書

保証書別添付



トースト

このたびは日立オーブンレンジをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、保証書とともに大切に保管してください。

「安全上のご注意」(→P.7~12)をお読みいただき、正しくお使いください。



「Webレシピ集」
詳しくは(→P.52)

本書にレシピ集は掲載されていません



日立の家電品
お客様サポート

詳しくは(→P.52)

もくじ

確認と準備 ご使用前に必ずお読みください

初めに行ってほしいこと／付属品	4
各部のなまえ	5
操作パネル	6
安全上のご注意	7
使うときの確認と準備	13
● 据え付けの確認	13
● アース線を取り付ける	13
● 電源を入れる	14
● 終了音(報知音)を変更する	14
● 空焼き(脱臭)をする	15
● 上手に使いこなすコツ	16
加熱前に確認する	16
メニューを選んで調理する	17
調理終了後のコツ	18
お手入れのコツ	18
使える容器・使えない容器	19

使いかた

加熱のしくみ	20
付属品の使いかた	20
● 付属品イラストの見かた	20
● 手動調理で使う付属品	20
あたためるワンポイント	21

オートメニュー

あたためる	22
● ごはん・お総菜のあたため	22
1 ごはん・おかず	
● 冷凍保存したごはん・お総菜のあたため	24
3 解凍あたため	
● 飲み物のあたため	26
2 飲み物・牛乳	
● コンビニ弁当のあたため	28
4 コンビニ弁当	
● 揚げ物のあたため	29
5 揚げ物あたため	
調理する	30
● トーストする	30
6 トースト(裏返し)	
下ごしらえする	31
● 肉や魚、刺身の解凍	31
7 肉・魚	8 刺身
● 野菜の下ゆで	33
9 葉・果菜	10 根菜

※本書に掲載の写真やイラストはイメージです。
実物とは異なることがあります。

食品別にあたためメニューを選ぶ

分量が100g未満の場合、市販のおにぎりや

ごはん

(常温・冷蔵・
冷凍保存)



ごはんをあたためる
→ 1 ごはん・おかず (→P.22、23)

冷凍保存したごはんをあたためる
→ 3 解凍あたため (→P.24、25)

天ぷら・ フライ



天ぷら・フライの衣をサクッと
あたためる

→ 5 揚げ物あたため (→P.29)

お総菜



お総菜をあたためる
→ 1 ごはん・おかず (→P.22、23)

冷凍保存したお総菜をあたためる
→ 3 解凍あたため (→P.24、25)

パン



トーストする

→ 6 トースト(裏返し) (→P.30)

手動調理

レンジ加熱する…………… 35

- 800W~100Wのレンジ加熱 …… 35
 - 加熱時間の決めかた …… 36
 - はじけや飛び散りなどを防ぐ加熱のしかた …… 37
- リレー加熱(加熱途中で強い加熱から弱い加熱に下げる)…………… 38

グリル加熱する…………… 39

オーブン加熱する…………… 40

- 予熱有 …… 40
- 予熱無 …… 41

発酵する…………… 42

- オープン発酵 …… 42

手動調理の加熱時間の目安…………… 43

- レンジ調理 …… 43
- オープン・グリル調理 …… 44

手動調理で設定できる単位時間…………… 44

お手入れ

本体をお手入れする(水滴や汚れをとる) … 45

- 本体 …… 45
- 付属品 …… 45
- 脱臭(加熱室の臭いをとる) …… 45

うまく仕上がらない・お困りのときは

うまく仕上がらないとき…………… 46

お困りのとき…………… 49

お知らせ表示が出たとき…………… 51

「日立の家電品お客様サポート」の利用 …… 52

保証とアフターサービス…………… 54

ご相談窓口…………… 55

レシピ集(Web)

ホームページからレシピ集を見る…………… 52

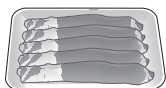
調理済み食品、まんじゅう、パン類、冷凍野菜などは、必ず手動調理(レンジ加熱)で調理をしてください。

飲み物



牛乳・お茶・コーヒー・水をあたためる
→ 2 飲み物・牛乳 (→P.26、27)

解凍

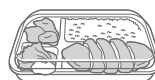


肉・魚の解凍
→ 7 肉・魚 (→P.31、32)

……………

刺身の解凍
→ 8 刺身 (→P.31、32)

コンビニ弁当



コンビニ弁当をあたためる
→ 4 コンビニ弁当 (→P.28)

下ゆで



野菜の下ゆで
→ 9 葉・果菜 (→P.33、34)

→ 10 根 菜 (→P.33、34)

初めに行ってほしいこと/付属品

1 付属品の確認

下記を参照し、付属品が全て揃っているか確認をしてください。

付属品

付属品の使いかた(→P.20)

■ 黒皿

皿受棚にセットして使います。
表面はホーロー加工が施されています。熱による変形を防ぐため、中央が膨らんだ形状をしています。(金属製)



黒皿用の「取っ手」(別売品)

黒皿用「取っ手」を別売品として扱っています。お買い上げの販売店にご相談ください(黒皿以外には使用できません)



厚めの乾いたふきんやお手持ちのオープン用手袋を使い、両手で黒皿を取り出します

2020年11月現在

部品名	部品番号	希望小売価格
取っ手	MRO-N80 003	880円(税込)

2 「安全上のご注意」を読む(→P.7~12)

お客様の安全と、長く使って頂くために必ずお読みください。

3 設置と電源の入れかたの確認(→P.13,14)

据え付けの確認・アース線の取り付け・電源の入れかたについて記載しています。

4 空焼き(脱臭)をする(→P.15)

加熱室壁面に付着している油を焼き切るために必要な作業です。**脱臭**を押して、空焼き(**脱臭**)を行ってください。

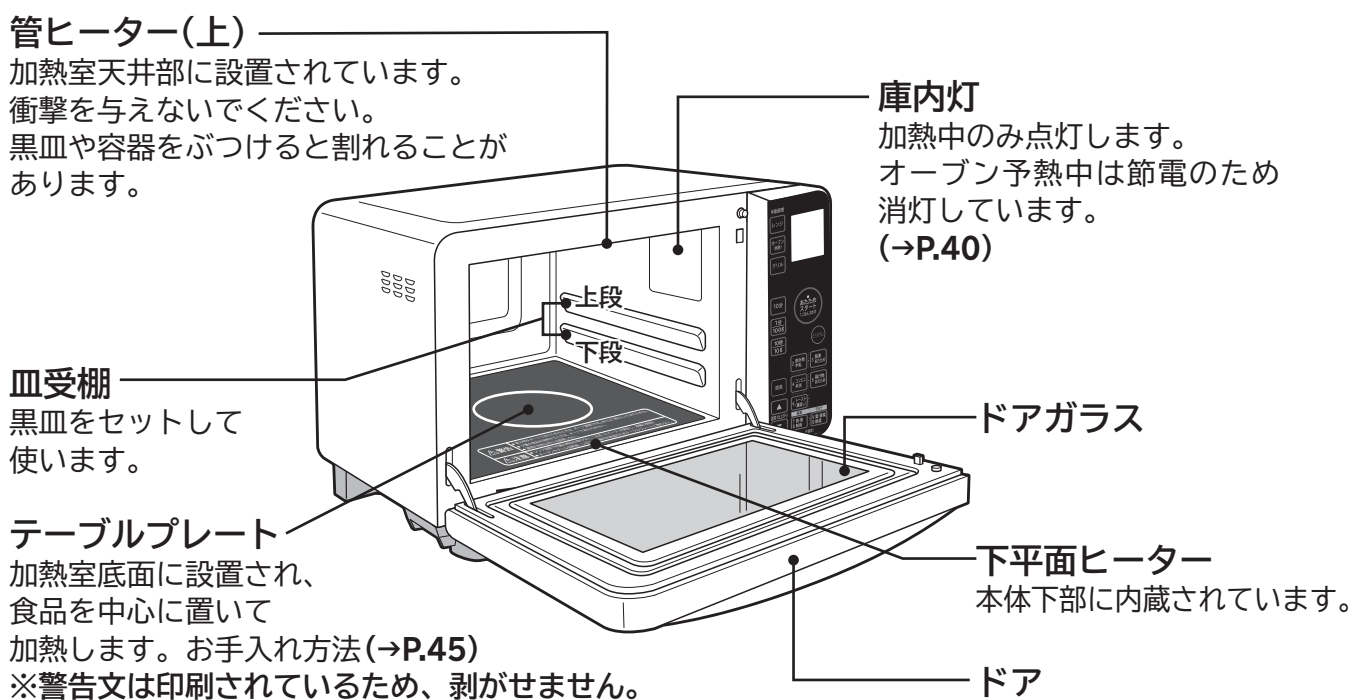
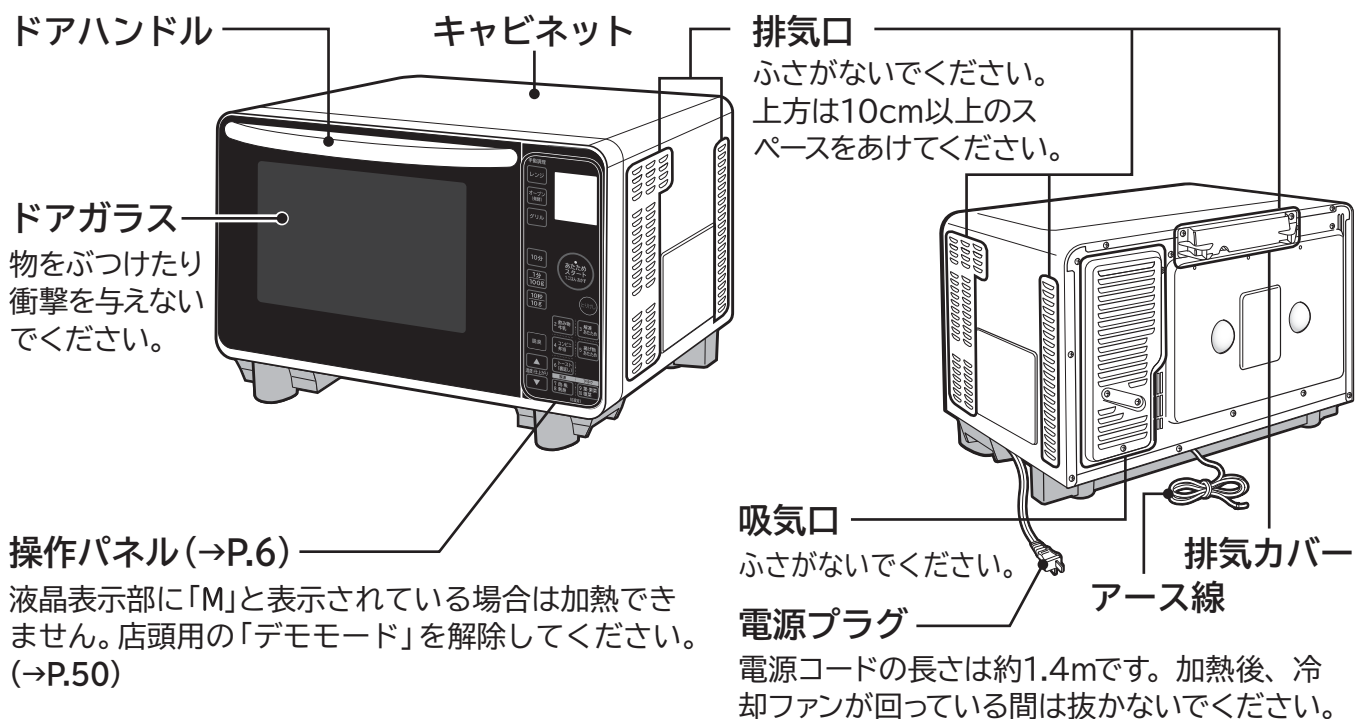
5 「使える容器・使えない容器」を確認する(→P.19)

各加熱方法で使える容器と使えない容器が異なります。
加熱の前に使用可能かどうか、確認をしてからご使用ください。

6 実際に使ってみましょう(→P.22)

準備が完了したら、まずは使ってみましょう。
オートメニューの「1 ごはん・おかず」でお総菜をあたためてみましょう。

各部のなまえ



操作パネル

手動調理ボタン
手動調理で調理するときに加熱の種類を選びます。

液晶表示部
設定内容や運転状況を表示します。(表示は全点灯イメージ図です)

あたため/スタートランプ
オートメニュー、手動調理のとき点滅して、**あたため**を押してスタートすることをお知らせします。(加熱を開始すると消えます)

あたため/スタートボタン
「1 ごはん・おかず」、オートメニュー、手動調理をスタートするときを押します。

とりけしボタン
設定内容や運転のとりけしを行います。

オートメニューボタン
ボタンを押してオートメニューの種類を選びます。

手動調理
レンジ
オープン(発酵)
グリル

時間/重量(グラム)ボタン
手動調理の時間の設定や、オートメニュー「7肉・魚」、「8刺身」、「9葉・果菜」、「10根菜」の重量(グラム)の設定を行います。

脱臭ボタン
ボタンを押して「脱臭」を選びます。(→P.15)

温度/仕上がりボタン
「1 ごはん・おかず」、オートメニューの仕上がり(→P.17)や手動調理の温度の設定を行います。

液晶表示部
レンジ オープン グリル 発酵
予熱 刺身 解凍 葉果菜 根菜
[オート]
現在 18分00秒
M約 1000W
黒血冷却中 g℃
弱・中・強 脱臭

あたため/スタート
1 ごはん おかず

とりけし

オートメニュー
2 飲み物 牛乳
3 解凍 あたため
4 コンビニ 弁当
5 揚げ物 あたため
6 トースト (裏返し)
7 肉・魚
8 刺身
9 葉・果菜
10 根菜
解凍 下ゆで
(g設定)

脱臭

温度/仕上がり

お知らせ

●1000Wについて

高周波出力1000Wは、短時間高出力機能(最大3分間)です。
オートメニューの「1 ごはん・おかず」などの限定したメニューでのみ働きます。




●オートメニューの場合、メニューによってスタート直後、表示部に「」を表示します。

安全上のご注意






この製品は一般家庭用です。業務用にはお使いにならないでください。

人身への危害、財産への損害を未然に防ぐため、お守りいただくことを、次のように区分して、説明しています。本文中の注意事項についてもよくお読みのうえ、正しくご使用ください。

- 誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

	危険 「死亡または重傷を負うおそれが高い」内容です。
	警告 「死亡または重傷を負うおそれがある」内容です。
	注意 「傷害を負うおそれや、物的損害の発生のおそれがある」内容です。

- お守りいただく内容を図記号で区分して、説明しています。

	「警告や注意を促す」内容です。
 	してはいけない「禁止」内容です。
 	実行しなければならない「指示」内容です。

製品内部には高圧部があります

火災・感電・けがのおそれ

故障したり、異物が本体に入ったりした場合は、電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店にご相談ください

危険



分解禁止

- 改造はしない
- 修理技術者(サービスマン)以外の方は修理・分解をしない



禁止

吸気口・排気口など、製品の穴やすき間に指や物を差し込まない
特に子供のいたずらなどに注意する

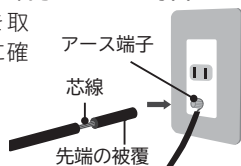
アース線は

警告



アース線を接続せよ

アース線を確実に取り付ける
コンセントにアース端子がある場合
アース線先端の被覆を取り、芯線をアース端子に確実に取り付けて下さい



コンセントにアース端子がない場合
接地工事(電気工事で資格者によるD種接地工事)を行ってください
(本体価格には、工事費は含まれていません)
ガス管、水道管、電話や避雷針のアースには取付けしないでください(法令で禁止されています)

D種接地工事が必要なときやアース線の長さが足りないときは、お買い上げの販売店にご相談ください

次の場合は接地工事(電気工事で資格者によるD種接地工事)を行うように法律で義務付けられています


- 湿気の多い場所
水蒸気が充満する場所、土間・コンクリート床、酒やしょうゆなどを醸造・貯蔵する場所
- 水気のある場所(漏電遮断機の取付けも義務付けられています)
水を取り扱う土間、洗い場など水気が多い場所、地下室などの水滴が漏出したり結露する場所

異常・故障時は

警告



指示

直ちに  を押し使用を中止する
火災・感電・けがの原因になります

すぐに電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店に点検・修理をご依頼ください

安全上のご注意 (つづき)

電源プラグ・電源コード・コンセントの発火や漏電をふせぐために
感電・けが、発煙・発火・火災のおそれ

警告

コンセントは



禁止

- 電源は、交流100V・定格15A以上のコンセントを単独で使用する
- 傷ついたり、ゆるんだりしたコンセントを使用しない
- タコ足配線はしない



電源プラグ、
電源コードは



禁止

- ぬれた手で電源プラグの抜き差しをしない
- 電源プラグ、電源コードに水をつけたり、水をかけたりしない
- 電源プラグを水につけた場合は使用しない
- 電源プラグ、電源コードを傷つけない
 - ・加工しない・無理に曲げない、引っ張らない、ねじらない、束ねない
 - ・加重をかけない、重い物をのせない、挟み込まない



指示

- 電源プラグはコンセントの奥までしっかり差し込む
- 電源プラグのほこりは確実にふき取る (特に刃や刃の取り付け面)



電源プラグを抜く

長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く

注意

電源プラグ、
電源コードは



禁止

- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張って抜かない
- 電源コードは排気口などの排気口高温部に近づけない

据え付けによる事故・感電・火災をふせぐために

感電・けが・壁の変色・電気部品の損傷・本体の落下のおそれ

警告



禁止

次のような場所には設置しない

- ・ 幼児の手の届く場所
- ・ カーテンやスプレー缶など、燃えやすい物の近く
- ・ たたみ・じゅうたん・テーブルクロスなど、熱に弱い物の上



指示

製品や付属品の梱包材はすべて取り除き、ポリ袋は幼児の手の届かない場所に保管、または廃棄する

注意



禁止

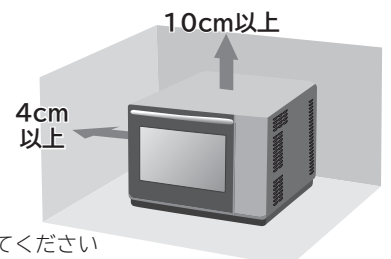
- 流しやコンロなど、水のかかるところや火気・熱気の近くで使用しない
- 熱に弱い壁材や家具の近く、コンセントが排気口の近くになる場所に据え付けない



指示

- 水平で丈夫な場所に据え付ける
- 本体と壁の距離は下表以上の距離を確保する
 - ・ この電子レンジは、「消防法 設置基準」に基づく試験基準に適合しています
 - 「消防法 設置基準」組込型

場所	上方	下方	左方	右方	前方	後方
隔離距離 (cm)	10	0	4	0	開放	0



・ 後方にガラスがある場合、温度差で割れるおそれがあるので、20cm以上あけてください

ご使用の際の事故・感電・火災をふせぐために

やけど・感電・火災・けが・電波洩れ・電気部品の損傷・本体の落下のおそれ

警告



禁止

- 子供だけで使わせたり、幼児に触れさせたりしない
- ドアやドアハンドルにぶら下がらない



禁止

- 調理の目的以外には使用しない
- 本体の上にスプレー缶などの物を置かない

オーブン加熱やグリル加熱などは、本体が高温となるため、スプレー缶などの物が過熱して事故・やけど・変形の原因になります



指示

食品分量・容器・使用付属品など、本書記載の内容に従って調理する

注意



禁止

- 吸気口・排気口をふさがない
- 加熱室壁面やテーブルプレートなどに食品くずや油分が残ったまま調理しない
- ドアに物を挟んだまま調理しない
- ドアガラスに物をぶつかけたり、衝撃を加えたり、傷を付けたりしない

小さな傷でも、ガラスが割れることがあります。また、傷が付いてもすぐに割れず、その後のご使用中またはご使用后(放置時)の熱膨張・熱収縮により割れることがあります

- ドアに無理な力や衝撃を加えたり、本体にのったりしない
- テーブルプレートは、容器を強く当てたりしない

割れたり、ひびが入ったときは、そのまま使用せず、お買い上げの販売店にご相談ください



禁止

- 本体に水をかけない
- 本体が転倒・落下した場合は、そのまま使用しない

誤って水をこぼした場合は、お買い上げの販売店にご相談ください

お買い上げの販売店へ点検をご依頼ください。転倒・落下を防ぐ「転倒防止金具セット」(別売品)をご利用ください(→P.13)

詳細は本書記載の「修理のご依頼や修理に関するご相談窓口」にお問い合わせください(→P.55)



指示

- 落雷のおそれがあるときは、電源プラグをコンセントから抜く
- 空焼き(脱臭)は次の状態で行う(→P.15)

油の焼ける臭いや煙が出る場合があります

- ・ 加熱室内に何も入れない
- ・ 煙や臭いなどに敏感な小鳥などの小動物は、別の部屋に移す
- ・ 窓を開けるか換気扇を回す

調理中や調理後の事故・感電・火災をふせぐために

やけど・感電・火災・けが・電波洩れ・電気部品の損傷・本体の落下のおそれ

警告



禁止

- 加熱室内で食品が燃え出したときはドアを開けない

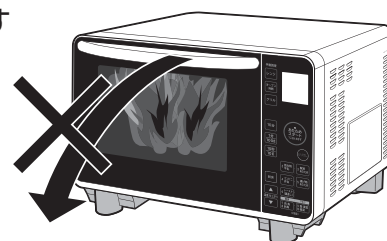
勢いよく燃えるおそれがあります

1. すぐに²を押しして運転を止め、電源プラグを抜く
 2. 本体から燃えやすい物を遠ざけ、鎮火するまで待ち、火がなかなか衰えないときは水が消火器で消す
- 鎮火後、そのまま使用せず、お買い上げの販売店にご相談ください



指示

- 調理やお手入れを中止するときは電源プラグを抜かず²を押す



安全上のご注意 (つづき)

調理中や調理後の事故・感電・火災をふせぐために (つづき)

やけど・感電・火災・けが・電波洩れ・電気部品の損傷・本体の落下のおそれ

注意



禁止

- 高温になっているので、キャビネット・排気口・ドア・加熱室・テーブルプレート・黒皿などに直接触れない
- ドアを開けるときはのぞき込まない
- 高温のドアガラスやテーブルプレートなどに水をかけない
- 冷却ファンが作動しているときは電源プラグを抜かない
- 小鳥などの小動物を近づけない



指示

食品や容器、付属品などの出し入れは、厚めの乾いたふきんやお手持ちのオープン用手袋を使用する



指のケガに注意

ドアを開閉するときは、指の挟み込みに注意する

お手入れの際の事故・感電・火災をふせぐために

やけど・感電・けが・電気部品の損傷・破損のおそれ

警告



電源プラグを抜く

電源プラグを抜いてから行う



指示

本体各部や付属品などが冷めてから行う



禁止

● 本体や付属品などは金属たわしや鋭利な物でこすらない

● 管ヒーター(上)は押ししたり、強くこすったりしない

割れたり、ひびが入ったときは、そのまま使用せず、お買い上げの販売店にご相談ください

そのまま使用するとけがや感電の原因になります

オートメニューのあたためや手動調理のレンジ加熱の事故・感電・火災をふせぐために

やけど・けが・火災・発煙・発火・ドアガラスの破損のおそれ

警告



禁止

- **食品以外は加熱しない**
市販のレンジ加熱用の湯たんぽ、哺乳びん(消毒パック)、玩具などは加熱しないでください
- **少量の食品(100g未満)を加熱する場合や手動調理で加熱を追加するときにはそばを離れない**
- **食品を加熱し過ぎない**
 - ・少量の食品(100g未満)は手動調理 **レンジ500W**以下で、加熱時間を20～50秒に設定し、様子を見ながら加熱する
 - ・オートメニューは、食品分量・容器など本書記載の内容に従って加熱する容器の重さは、食品分量と同じくらいの物を使用して加熱します
 - ・手動調理(レンジ加熱)は、設定する時間を控えめにし、食品の仕上がりが具合を見ながら加熱する



湯たんぽ



禁止

次のような状態で加熱しない

- ・鮮度保持剤(脱酸素剤など)を入れた状態
- ・包装や食品にラベルやテープを貼った状態
- ・びんや容器にふたや栓などをした状態
- ・キッチンペーパーなどの紙類で包んで加熱しない
- ・缶詰の缶のままの状態
- ・市販のレトルト食品の袋のままの状態
鮮度保持剤は出し、ラベル・テープは剥がし、ふたや栓は外し、缶詰などは別の容器に移しかえて加熱してください
- **生卵やゆで卵(殻つき・殻なしとも)、目玉焼きは加熱しない**



生卵



ゆで卵



黄身や目玉焼き



指示

卵は溶きほぐしてから加熱する



指示

殻や皮(膜)のある食品は、割り目や切り目を入れてから加熱する
例：イカや栗、ぎんなんなど



注意



禁止

- **加熱室に食品を入れない状態で加熱しない**
- **金属製の次の物は使用しない**
 - ・付属品の黒皿(オートメニューの一部は除く)
 - ・金ぐしや金属の調理用具
 - ・アルミホイル
 - ・金属・ホーローの鍋、ふた
 - ・アルミなどで表面加工されたプラスチック容器



指示

- 乳幼児用ミルク、ベビーフードや介護食をあたためるときは、手動調理(レンジ加熱)で加熱後、かき混ぜてから、温度を確認する
- 市販のベビーフードは、別の容器に移しかえて加熱する
- ラップなどのおおいは、加熱後ゆっくりと剥がす

安全上のご注意 (つづき)

飲み物などをあたためる際の突然の沸騰(突沸)をふせぐために
やけど・けが・テーブルプレート破損のおそれ

警告



- 飲み物などを加熱し過ぎない
 - ・ 飲み物(水・牛乳・お酒・コーヒー・豆乳など)
 - ・ とろみのある物(カレー・シチューなど)
 - ・ 油脂分の多い物(生クリーム・バターなど)
 加熱し過ぎた場合は、1～2分程度加熱室内で冷ましてから取り出してください

- **1 ごはん・おかず** で飲み物や汁物などを加熱しない
 - ・ 牛乳、お茶、コーヒー、水は **2 飲み物・牛乳** で加熱する
 - ・ お酒、みそ汁・スープなどは手動調理(レンジ加熱)で加熱する
 加熱後に追加で加熱するときは、手動調理 **レンジ 500W** 以下で様子を見ながら加熱してください



- 加熱直後は上からのぞき込まない
- 容器の半分以下(少量)のときはオートメニューで加熱しない
- 加熱直後はインスタントコーヒーなどの粉末やミルクなどの液体を入れない



- 飲み物をあたためるときは、背の低い広口の容器を使用する
- 加熱前によくかき混ぜる
- 加熱室から取り出すときは、静かに取り出す



加熱前

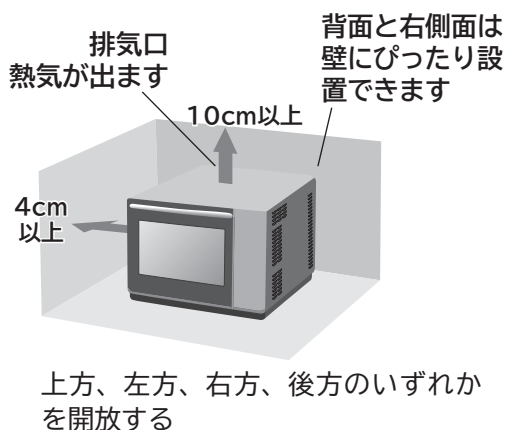
使うときの確認と準備

初めて使うときは以下の手順(→P.13~18)に従って、確実に確認と準備をしてください。

据え付けの確認

安全上のご注意(→P. 7、8)をよく読んで据え付けてください

- 水平で丈夫な場所に据え付けてください
- 調理中や調理後は本体上面・周囲が高温となる場合があるので、下図の距離以内に物を置かないでください
- 設置の際は右図に従って設置してください
また次のことを確認してください
 - 上方、左方、右方、後方のいずれかを開放する
壁面が変色したり、本体が故障する原因になります
 - 背面・側面はぴったりと設置できますが、壁の材質によっては接触跡がついたり結露することがあります
壁面と本体の間を少しあけ、壁面側にアルミホイルを貼り、保護してください
 - 後方にガラスがある場合、温度差で割れる恐れがあるので20cm以上あけてください
- 熱に弱い物やカーテンのそばに据え付けしないでください
- 本体の下に、炊飯器や電気ポットなどの水蒸気が出る物を設置しないでください
- 吸気口、排気口をふさぐ設置はしないでください
- 本製品の近くでは、無線LAN機器の通信状態が低下することがあります
無線通信機器やご使用の無線LANルーターの取扱説明書をよくお読みのうえ、お使いください。



転倒防止金具セット(別売品)

転倒防止金具セットを別売品として扱っています。
お買い上げの販売店にご相談ください。

2020年11月現在

背面と壁の距離	部品番号	希望小売価格
壁ぴったり設置	MRO-JV300 012	1,100円(税込)
15~22cm	MRO-N80 016	1,100円(税込)

お願い

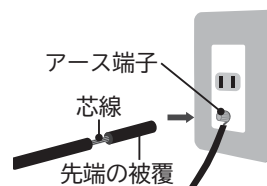
医療用ペースメーカーをお使いの方は、この製品をご使用の際には、専門家とよく相談の上お使いください。

アース線を取り付ける

アース線先端の被覆を取り、芯線をコンセントのアース端子に確実に取り付ける

コンセントにアース端子がない場合、湿気が多い場所や水気のある場所で使用する場合はD種接地工事をする。(→P.7)

D種接地工事が必要なときやアース線の長さが足りないときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

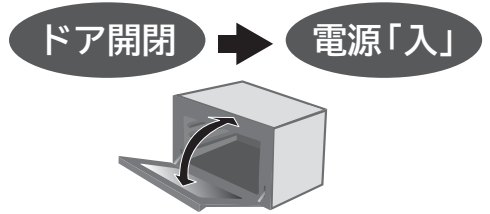


使うときの確認と準備 (つづき)

電源を入れる

1 電源プラグをコンセントに差し込む

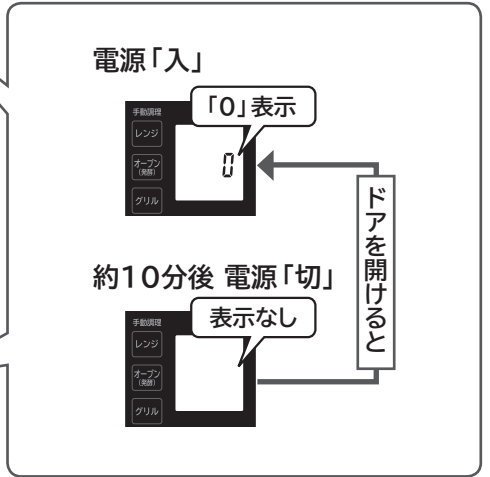
使用していないときの消費電力を節約するため、電源プラグをコンセントに差し込んだだけでは電源は入りません。



2 ドアを開閉する

電源が「入」になり、液晶表示部に「0」を表示します。ドアが開いた状態は電源が「入」になっています。

液晶表示部に「M」と表示されている場合は(→P.50)



待機時消費電力オフ機能

- ドアを閉めて液晶表示部に「0」を表示したまま放置すると、約10分後には表示がすべて消え、自動的に電源が切れます。
- 待機時消費電力オフ機能で電源が切れた場合は、再度ドアを開閉すると電源が「入」になります。


終了音(報知音)を変更する

スタート音、終了音などの報知音をメロディー音から電子音にかえたり、無音にできます。

準備 ドアを開閉する

液晶表示部に「0」を表示させます。

1 を3秒以上押す

- 終了音(報知音)は、 を押すたびに「メロディー音」「電子音」「無音」の順に切りかえられます。

→メロディー音(メロディーが鳴る)▶電子音(「ピピピピ」と3回鳴る)▶無音(「ピッ」と鳴る)←

「無音」にしたときは、取り出し忘れ防止音(→P.18)、裏返しの報知音(→P.30)、操作音も「無音」になります。

- 冷却中に終了音の変更はできません。「冷却中」の表示が消えてから操作します。

空焼き(脱臭)をする

脱臭

加熱室壁面に付着している油を焼き切るために空焼き(脱臭)を次の手順で行ってください。

空焼き(脱臭)中は臭いや煙が出ますが、故障ではありません。

準備 加熱室を空の状態にしてドアを閉める

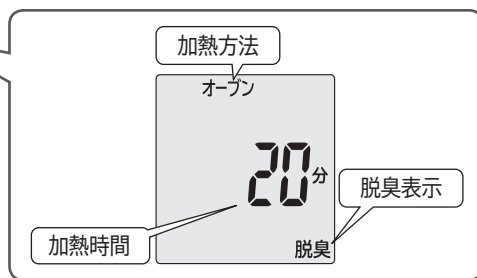
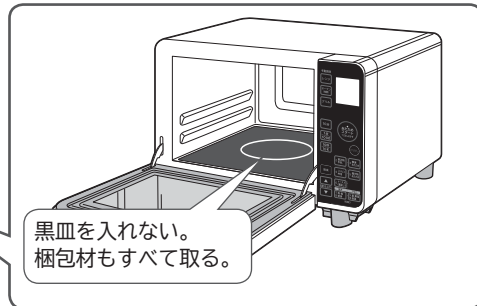
1 脱臭を押して脱臭を選ぶ

2 あたためスタートを押してスタートする

空焼き(脱臭)はヒーター(オーブン加熱)で行います。加熱時間は約20分です。

終了音が鳴ったら終了です。本体が熱くなっています。ご注意ください。

空焼き(脱臭)終了後、冷却ファンが最大約10分間回転し、冷却終了後自動で停止します。



注意



空焼き(脱臭)を行うときは、加熱室に何も入れない

禁止



煙や臭いなどに敏感な小鳥などの小動物は、別の部屋に移す

指示



空焼き(脱臭)の加熱中や終了後しばらくは、本体(ドア、キャビネット、加熱室とその周辺)に触れない
やけど・けがの原因になります

接触禁止



空焼き(脱臭)を行うときは、油の焼ける臭いや煙が出る場合があるので、窓を開けるか、換気扇を回す

指示

使うときの確認と準備 (つづき)

上手に使いこなすコツ

加熱前に確認する

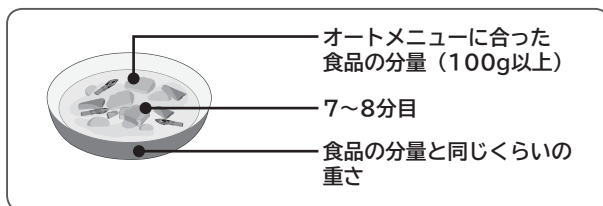
あたためメニューは食品と容器の重さをそろえる

■ 食品の分量

- 食品の分量は100g以上にします。オートメニューによって1回に加熱できる分量は異なります。
- 「使いかた」に記載の各オートメニューのコツやWebレシピ集に記載の分量を確認してください。

■ 容器の重さと大きさ

食品の分量と同じくらいの重さで、食品を入れたときに容器の7～8分目になる大きさの物を使います。



■ 2個以上の食品を同時にあたためるときは食品の分量や容器の大きさ・重さをそろえます。

食品は中央に置く

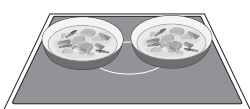
テーブルプレート、黒皿の端や隅に置くとうまく仕上がりにません。



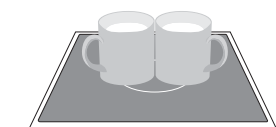
レンジ加熱の場合



オーブン・グリル加熱の場合



お総菜は少し離して中央に寄せる



飲み物は中央に寄せる

ふた(内ふたを含む)を外す

■ 容器にふたをして加熱すると、うまく仕上がりにません。

ふた付きの容器などで、ふたをして加熱するときは手動調理(レンジ加熱(→P.35~37))で様子を見ながら加熱します。

■ はじけや飛び散る恐れがある食品はラップをします。(→P.23、25)

- 皮や殻つきの物は殻を割り、表面に切り目を入れるとはじけや飛び散りを防ぎます。(→P.37)
- とろみのあるものは加熱前によくかき混ぜてラップをします。

解凍時は皿などの容器にのせない

肉や魚の解凍はより良い仕上がりにするため、陶磁器や耐熱皿などは使わない。

- 肉や魚の解凍は発泡スチロール製のトレーにのせるか、オーブンシートやキッチンペーパーを敷き、その上にのせます。
- 冷凍室から出したばかりのコチコチに凍った肉か魚を解凍する。
- ラップなどのおおいはしない。

お願い

100g未満の食品をあたためるときは手動調理[レンジ|500W](→P.35~37)で加熱時間を20～50秒に設定し、様子を見ながら加熱します。

市販の冷凍食品をあたためるときは手動調理であたためます。

加熱時間は冷凍食品メーカーが表示している[レンジ|600W]または[レンジ|500W]の時間を目安にして加熱します。

「あたためワンポイント」(→P.21)

次のページは「調理終了後とお手入れのコツ」

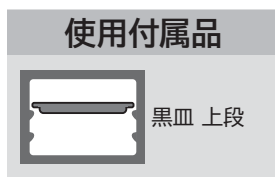
メニューを選んで調理する

食品の種類でオートや手動を使い分ける

	オート/手動	使いかた
あたためる	オート  ワンタッチ (1 ごはん・おかず) でごはん・お総菜をあたためる (→P.22、23)	(→P.22、23)
	    「食品別に合わせてあたためメニューを選ぶ」(→P.2、3) に記載の食品 (解凍・下ゆでメニューを除く) をあたためる (→P.22~29)	(→P.22~29)
	手動  レンジの出力や加熱時間を設定してあたためる (→P.35~38)	(→P.35~38)
トーストする	 「肉や魚、刺身の解凍」(→P.31、32) に記載の食品を解凍する (→P.31、32)	(→P.31、32)
	 「野菜の下ゆで」(→P.34) に記載の食品を下ゆでする (→P.33、34)	下ゆで (→P.33、34)
調理する	オート   Webレシピ集に記載のオートメニューのレシピを調理する (→P.30) 下ゆで (→P.33、34)	6トースト(裏返し) (→P.30) 下ゆで (→P.33、34)
	手動    Webレシピ集に記載の手動調理のレシピと市販の料理ブックのレシピを調理する (→P.35~42)	(→P.35~42)

メニューに合った付属品を使う

使用する付属品は、各レシピに記載のイラストで確認します。

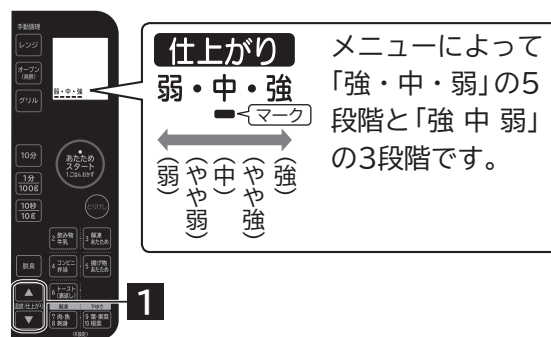


「付属品イラストの見かた」(→P.20)
 「手動調理で使う付属品」(→P.20)

オートメニューの仕上がりをお好みに近づける(仕上げ調節)


- 仕上がりが、加熱し過ぎる、加熱が足りないと感じたときは調節できます。
- オートメニューをスタートする前に、仕上げ調節を設定します。

例：2 飲み物・牛乳 (→P.26、27) の場合




1 ▲ を押してマークをお好みの位置に合わせる

- 仕上がりは「中」(標準)に自動設定されています。
- 仕上げ調節中に ▲ を3秒以上押すと「ピー」と鳴り、調節を記憶できます。メニュー毎に記憶でき、次回から記憶した仕上がりに自動設定されます。

- ワンタッチで「1 ごはん・おかず」(→P.22、23) をスタートしたときは  を押した後に仕上げ調節を設定します。

調理中のドア開閉は短時間にする

- すぐに  を押して加熱を再開する。
 ドアを開けると加熱を中断します。中断の時間が長いと加熱室の温度が下がって上手く仕上がりにせん。
- 仕上がりの確認はドア越しにする。

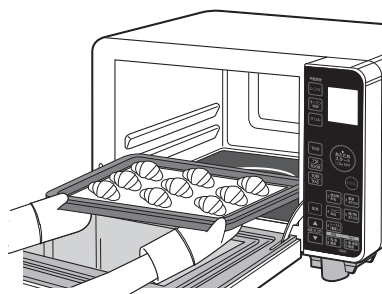
使うときの確認と準備 (つづき)

上手に使いこなすコツ (つづき)

調理終了後のコツ

食品を早めに取り出す

- 余熱で仕上がり(焼き色)が変わることがあります。
- 食品、特に飲み物や汁物を取り出すときは、こぼさないように気を付けます。
- オープン加熱やグリル加熱後は本体や付属品が熱くなっています。
付属品を取り出すときは、やけどに注意して厚めの乾いた布きんやお手持ちのオープン用手袋を使い両手で取り出します。



- 食品を取り出し忘れると、音が鳴ってお知らせします。
取り出し忘れ防止のために調理終了後、ドアが開けられるまでの3分間、1分ごとに「ピピピッ」と鳴ってお知らせします。

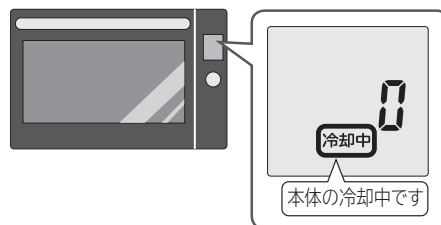
加熱が足りないときは手動調理で加熱を追加する

オートメニューや手動調理で加熱後にもう少し熱くしたいとき、焼きたいときは、手動調理で様子を見ながら追加加熱します。

「手動調理」の使いかた(→P.35~37)

冷却中は電源プラグを抜かない

- 冷却のために冷却ファンが回ることがあります。冷却中でも一部手動調理を使用できます。
- 冷却ファンの運転時間は最大約10分です。
- 電源プラグを抜くときは、「冷却中」の表示が消え、冷却ファンが停止していることを確認してください。



- 約10分放置すると自動的に本体の電源が切れます。
ドアを開けると電源が入ります。

お手入れのコツ

続けて調理しないときは、こまめなお手入れがポイントです。加熱室が冷めてからお手入れします。

加熱室の汚れをとる

加熱室が冷めてから、加熱室の汚れを拭きとります。

加熱室の臭いをとる

加熱室の臭いが気になるときは空焼きをして脱臭します。

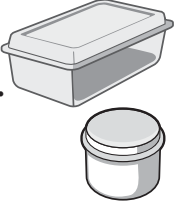
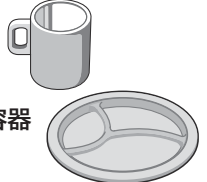
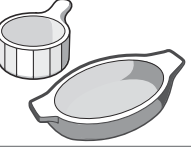
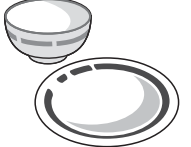
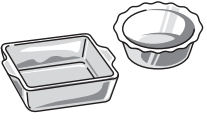
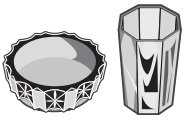
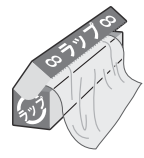


「空焼き(脱臭)をする」(→P.15)

使える容器・使えない容器

○は使える。
×は使えない。

使用上のご注意

- レンジ加熱とオーブン、グリル加熱を間違えないでください。間違えると食品や容器が発煙・発火することがあります。加熱する前に、加熱の種類を確認してください。
- プラスチック類は家庭用品品質表示法に基づく耐熱温度表示をご覧ください。
- 材質や耐熱温度がわからない容器は使わないでください。

		レンジ	オーブン・グリル
プラスチック・シリコン容器	耐熱性のあるプラスチック容器・シリコン容器 ポリプロピレン製など 	○ 耐熱温度が140℃以上の物で、「電子レンジ使用可」の表示のある物を使います。ただし、砂糖、バター、油を使った料理は高温になり、容器が変形して使えません。加熱中に蒸気が吹き出した場合は、蒸気に混じって吹き付けられた食品が固着して、加熱室の塗装が傷む場合があります。調理後は、すぐにふき取ってください。	× ただし、「オーブン・グリル使用可」の表示のある物は容器に記載の耐熱温度以下で使えます。
	その他のプラスチック容器 	× 耐熱温度が140℃未満の物(ポリエチレン、スチロール樹脂など)や耐熱温度が高くても電波で変質する物(メラミン、フェノール、ユリア樹脂、アルミなどで表面加工した樹脂など)は使えません。ただし、 7肉・魚 8刺身 のときにだけ、発泡スチロール製のトレーが使えます。	×
陶器・磁器	耐熱性のある陶器・磁器 ココット皿 グラタン皿など 	○	○
	日常使っている陶器・磁器 茶わん・皿など 	○ ただし、色絵付け、ひび模様、金、銀模様のある物は、器を傷めたり、火花(スパーク)が出るので使えません。また素焼きの陶器、土鍋など吸水性の高い物や、長時間浸水させた陶器、磁器は、熱くなり、割れるおそれがあるので注意してください。	×
ガラス容器	耐熱性のあるガラス容器 	○ ただし、加熱後、急冷すると割れることがあります。	○ ただし、加熱後、急冷すると割れることがあります。
	耐熱性のないガラス容器 強化ガラス クリスタルガラス カットグラスなど 	×	×
その他	ラップ類 	○ 耐熱温度が140℃以上の物は使えます。ただし、油、バター、砂糖を使った料理は高温になり、ラップが溶けて使えません。オーブン・グリル加熱後は、加熱室が熱くラップ類が溶けるおそれがあるので注意してください。	× ただし、発酵では使えます。
	金属、金属製のケーキ型・金属容器・金ぐし・アルミホイルなど 	× 電波を反射するので使えません。ただし、アルミホイルは電波を反射する性質を利用し、加熱し過ぎる部分をおおうなど、部分的に使えます。このとき、加熱室壁面、ドアガラスに触れると火花(スパーク)が出て、破損や故障のおそれがあるので注意してください。	○ ただし、プラスチックの持ち手がついている物は使えません。
	竹・木・籐・紙(新聞紙・封筒・紙袋など)・ニス塗り・漆塗り容器など 	× 焦げたり、塗りがはげたり、ひび割れすることがあるので使えません。特に針金を使って燃えやすくなります。ただし、竹ぐし、楊枝、紙製品はWebレシピ集に記載している使いかたに限り使えます。	× ただし、硫酸紙や耐熱性の加工を施した紙製品(オーブンシート)は使えます。

加熱のしくみ

レンジ

電波（高周波）で食品を加熱します。
電波（高周波）には3つの性質があります。



水分を含んだ食品には「吸収」されます。



ガラス、陶磁器などの容器は「透過」します。



金属にあると「反射」します。

スピーディーで経済的です。



水を使わないので栄養素が保たれます。



色や形、風味が保たれます。

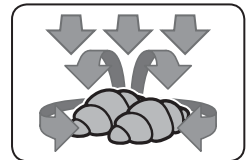


盛りつけたままで加熱できます。



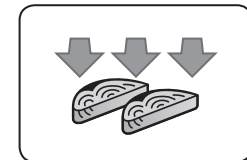
食品に吸収された電波は、水の分子の振動運動を活発にし、熱を発生させます。この熱で食品をスピーディーに加熱します。

オーブン



上下ヒーターで加熱室の温度を一定にするよう制御し、食品全体を包み込むようにして焼きます。

グリル



食品を上下ヒーターで加熱し、食品に焼き色をつけ、中は柔らかく仕上げます。

使いかた

付属品の使いかた

付属品イラストの見かた

メニューによって、使う付属品が異なります。操作手順やWebレシピ集のイラストに従い、正しくセットしてください。

使う付属品の例

黒皿を使用する場合

使用付属品

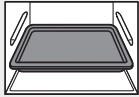

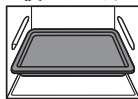




付属品のセット位置
黒皿を皿受棚の上段にセットする。

黒皿 上段

使用する付属品

手動調理で使う付属品

手動調理の加熱方法	付属品の種類 (○:使える ×:使えない)	
		黒皿  ※1
レンジ	× 	使えません  使えません
オーブン	○ 	使えます  使えます
オーブン発酵		
グリル (上段のみ)		

※1 黒皿は本書に従い、上記の使いかたの例を参照し、上段、下段に正しくセットしてお使いください。

あたたためのワンポイント

オートメニューでは加熱し過ぎたり、皮や袋がはじけて飛び散ることがあります。

手動調理 **レンジ 500W** (→P.35~37) で様子を見ながらあたためるもの

- 分量が100g未満の食品
- 冷凍野菜
- まんじゅう
- パン類

市販の冷凍食品・弁当、チルド食品は手動調理の下記調理方法であたためます。

市販の冷凍食品・チルド食品のあたたため

- ① 食品メーカーが指示するトレイや容器に入れます。

電子レンジ可・レンジで調理などの表示があるか確認をしてください

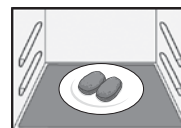


- ② 手動調理のレンジ加熱 (**600W**、**500W**) (→P.35 ~ 37) で加熱する。

調理時間の目安	
500W	600W
約 2分40秒	約 2分30秒

- ③ 加熱するときはテーブルプレートの中央に食品を置き、**START**を押してあたためます。

冷凍食品の中にはターンテーブル式のオーブンレンジ対応の置きかたが記載されているものがありますが、本製品はフラットテーブル式のオーブンレンジです。端に食品を置くとうまく仕上がりにません。



食品は
テーブルプレートの
中央に置く

	1個の場合	2個の場合	4個の場合
本製品での食品の置きかた (中央に寄せて置きます)			
パッケージに記載の置きかた (本製品とは異なります)			

- レンジ加熱の出力・加熱時間は冷凍食品メーカーが表示している **レンジ 600W** または **レンジ 500W** の時間を目安にして、若干長めに加熱します。

パッケージに加熱方法の記載がない市販の調理済み食品

- ① 包装やプラスチック容器から別の耐熱容器に移しかえます。

- ② 手動調理の **レンジ 500W** で様子をみながら加熱します。

あたためる (オートメニュー)

ごはん・お総菜のあたため

1 ごはん・おかず

常温・冷蔵保存した食品をあたためます。

- 飲み物(牛乳、コーヒー、豆乳、お茶、水など)は[2 飲み物・牛乳]であたためます。(→P.26、27)
- 冷凍ごはんのあたため、冷凍保存(ホームフリージング)したお総菜は[3 解凍あたため]を使います。(→P.24、25)
- 市販の冷凍食品は手動調理(レンジ加熱)であたためてください。(→P.21)

オートメニュー



お知らせ ドアを開けると電源が入ります。

準備

食品をテーブルプレートの中央に置き、ドアを閉める

1

あたためスタート を押してスタートする

メニュー番号「1」(1 ごはん・おかず)を表示し、自動的に加熱がスタートします。

仕上がり調節をするときは、**あたためスタート** を押してから約10秒以内に調節します。約10秒経過すると、操作を受け付けません。

MARK を押してマークをお好みの位置に合わせる

仕上がりは「中」(標準)に自動設定されています。



使用付属品



黒皿は使用しません

加熱時間計算中



仕上がり調節 メニュー番号



残り加熱時間: 食品によってかわります。

2

終了音が鳴ったら、食品を取り出す

加熱室が冷めてからお手入れをする(→P.45)

お願い

約10分間放置すると待機時消費電力オフ機能が働き、電源が切れます。ドアを開閉して電源を入れてから **あたためスタート** を押してください。(→P.14)

注意



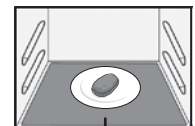
禁止

分量が100g未満のときはオートメニューで加熱しない
手動調理 [レンジ] [500W] 以下で加熱時間20～50秒に設定し、様子を見ながら加熱する。

食品の置きかた テーブルプレートの中央に置く

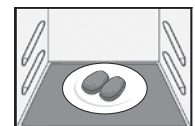
食品を端に置いたり、少量の食品をオートメニューで加熱したりすると、加熱し過ぎとなり、発煙・発火のおそれがあります。

1個



テーブルプレート

2個



食品が2個以上の場合、中央に寄せる

保存した食品をあたためる (容器あり)				ラップの有無の「×」はラップをしないことを示す	
メニュー名および調理のコツ		ラップの有無	メニュー名および調理のコツ		ラップの有無
ごはん物	ごはん・チャーハン・ピラフ 加熱後、かき混ぜる。 仕上がり調節 [やや弱] または [弱] に合わせる	×	煮物	 野菜の煮物・おでん (たまごは取り除く) 容器に入れて、煮汁をかける。	×
	 スパゲッティ・焼きそば 皿にのせる。加熱後、かき混ぜる。	×		 煮魚 容器に入れて、煮汁をかける。煮魚は身が飛び散ることがあるので、深めの皿を使い、ラップをする。	
焼き物	 焼き魚 焼き魚は身が飛び散ることがあるのでラップをする。		蒸し物	 シューマイ 少しすき間をあけて皿に並べ、水分を補ってから加熱する。乾燥気味のときは、さっと水にくぐらせる。	×
	 ハンバーグ 加熱後、裏返して1~2分おく。ソースは飛び散ることがあるので加熱後にかける。	×		とろみのある物	 カレー・シチュー 冷凍保存した物やえびやいかは飛び散ることがあるので、ラップをする。(丸ごとのマッシュルームはあらかじめ取り除き、加熱後加える) 加熱後よくかき混ぜる。 仕上がり調節 [やや強] または [強] に合わせる。 みそ汁・スープなどは、手動調理(レンジ加熱)(→P.35~37)で様子を見ながらあたためる。 陶磁器や耐熱容器を使う。(→P.19)
	 焼きとり・焼き肉 皿に並べる。たれを塗ってから加熱する。	×	揚げ物		 天ぷら・フライ・コロッケ 皿に並べる。量が少ないときは仕上がり調節 [やや弱] または [弱] に合わせる。 油が気になるときは、加熱後、キッチンペーパーで取る。 ただし、えびやいかは飛び散ることがあるのでラップをする。
いため物	 野菜のいため物・酢豚・八宝菜・ミートボール 容器に入れる。野菜いためが乾燥している場合は、バターかサラダ油を加える。 加熱後、かき混ぜる。	×			

ごはん・お総菜の上手なあたためかた

1 ごはん・おかず

■ 1回にあたためられる分量は
100~600gです。

■ 容器の重さは(→P.16)

食品の分量と同じぐらいの重さの物を使います。

■ 容器は

食品の分量が7~8分目くらいになる物が目安です。

■ 食品の温度の目安は

常温は約20℃、冷蔵は0~10℃です。

あたためる (オートメニュー)

冷凍保存したごはん・お総菜のあたため

3 解凍あたため

冷凍ごはん、冷凍保存 (ホームフリージング) したお総菜をあたためます。

オートメニュー



お知らせ ドアを開けると電源が入ります。

準備

食品をテーブルプレートの中央に置き、ドアを閉める

1

3 解凍あたため を押して **3 解凍あたため** を選ぶ
仕上がり調節を設定するときは (→P.17)

2

あたためスタート を押してスタートする

3

終了音が鳴ったら、食品を取り出す
加熱室が冷めてからお手入れをする (→P.45)

使用付属品



黒皿は使用しません

メニュー番号

レンジ

[オート]

3

弱・中・強

仕上がり調節

加熱時間計算中

レンジ

[オート]

03

弱・中・強

仕上がり調節

メニュー番号

レンジ

[オート]

2分38秒

弱・中・強

残り加熱時間: 食品によってかわります。

調理終了

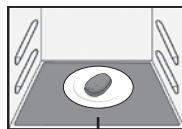
0

食品の置きかた

テーブルプレートの中央に置く

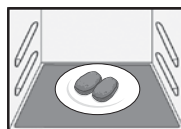
食品を端に置いたり、少量の食品をオートメニューで加熱したりすると、加熱し過ぎとなり、発煙・発火のおそれがあります。

1個



テーブルプレート

2個



食品が2個以上の場合、中央に寄せる

冷凍保存した食品を解凍してあたためる(容器あり)				ラップの有無の「×」はラップをしないことを示す			
メニュー名および調理のコツ		ラップの有無	メニュー名および調理のコツ		ラップの有無		
ごはん物			いたため物				
			蒸し物				
めん類			とろみのある物				
焼き物							
揚げ物		×					
冷凍ごはん・チャーハン・ピラフ				冷凍カレー・シチュー			
●ラップに包んで四角形に形作った冷凍ごはんを平皿にのせる。				容器に入れ、ラップをする。ゆとりをもっておい、仕上げり調節			
●2個以上のときは分量を同じにして、中央に置く。				[やや強]または[強]に合わせる。加熱後、かたまりをほぐし、よくかき混ぜる。			
●冷凍チャーハン、ピラフは、ほぐして皿にのせる。加熱後かき混ぜる。				みそ汁・スープなどは、手動調理(レンジ加熱)で加熱します。			
				使用する容器は、陶磁器や耐熱容器を使います。			
				漆器や耐熱性のない容器は使えません。(→P.19)			

冷凍保存したごはん・お総菜の上手なあたためかた

3 解凍あたため

■1回にあたためられる量は

100g～600gです。100g未満の食品は手動調理(レンジ加熱)で様子を見ながらあたためます。(→P.35～37)

■容器は

食品の分量が7～8分目くらいになる物が目安です。

■食品の分量と容器の重さを同じくらいにしてください

食品の分量が容器の重量よりも重いときは仕上げり調節を[やや強]に合わせます。

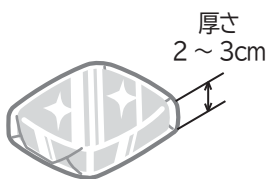
■冷凍保存した食品の温度の目安は、約-18℃です

上手な冷凍保存(フリージング)のコツ

■材料は新鮮な物を

■冷凍する分量と形は

1回分ずつ(200～300g)に分け、2～3cmの厚さで、極端に薄くならないように平らな形にまとめます。丸めたり、指定の分量以上をひとまとめにすると、中まであたたまりにくくなります。



■ごはんやカレーなどは

ごはんは1杯分(150g)ずつに、カレーなどは100～300gずつに分け、薄く(厚さ2～3cm)平らにして冷凍します。丸ごとのマッシュルームなど飛び散りやすい物は、あらかじめ半分に切っておきます。

■野菜は

かためにゆで、水けをよく切って1回分(100～200g)ずつラップなどで包み、冷凍します。

■ラップでぴったり密封をします

食品の分量にあった大きさのラップで、食品とラップの間に隙間ができないようにぴったり包みます。加熱するとき上側になる面に、ラップが重ならないようにします。

あたためる (オートメニュー)

飲み物のあたため

2 飲み物・牛乳

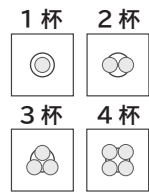
- 牛乳、豆乳、お茶、コーヒー、水は「2 飲み物・牛乳」で、杯数(1~4杯)を選びます。
- お酒は手動で様子を見ながらあたためます。

使用付属品

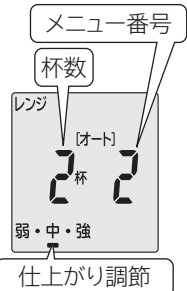


黒皿は使用しません

食品の置きかた
(テーブルプレート
の中央に置く)



例：2杯の場合



加熱時間計算中



残り加熱時間：メニュー
によってかわります。

お知らせ ドアを開けると電源が入ります。

準備

食品をテーブルプレートの中央に置き、ドアを閉める

1

「2 飲み物・牛乳」を押して「2 飲み物・牛乳」と杯数(1~4杯)を選ぶ

- 「2 飲み物・牛乳」を押すごとに杯数を選べます。

1杯 ▶ 2杯 ▶ 3杯 ▶ 4杯

- 仕上がり調節を設定するときは(→P.17)

2

「あたためスタート」を押してスタートする

3

終了音が鳴ったら、食品を取り出す

加熱室が冷めてからお手入れをする(→P.45)



警告



禁止

飲み物は容器の半分以下(少量)のときはオートメニューで加熱しない

加熱し過ぎになり、加熱中や加熱後に突然沸とう(突沸)して飛び散り、やけど・けがの原因になります
手動調理(レンジ加熱)(→P.35~37)で様子を見ながら加熱します



突沸

飲み物の上手なあたためかた

2 飲み物・牛乳

- **2 飲み物・牛乳** であたためられる飲み物は
冷蔵保存した牛乳、常温・冷蔵保存したお茶、コーヒー、
水などです。
- **1回にあたためられる分量(1～4杯分)**は
牛乳、お茶、コーヒー、水は150～800mLです。
- **加熱前によくかき混ぜます**
- **牛乳は冷蔵庫から出したての物を使います**
- **100mL未満の少量であたためるときは**
加熱室から取り出した後でも、突然沸とう(突沸)して
飛び散りや、やけどをすることがあります。
手動調理(レンジ加熱)で様子を見ながら加熱します。
(→P.35～37)

■ 容器の種類と飲み物の入れかた

- 容器はマグカップやコップ(背が低く、広口の物)を使い、飲み物を容器の7～8分目まで入れます。
- 牛乳びんでの加熱はできません。



■ テーブルプレートの中央に置きます

- 2個以上を同時にあたためる場合は、テーブルプレート中央に寄せて置きます。

■ 「1ごはん・おかず」では熱くなり過ぎます

- 食品に合ったオートメニューであたためてください。

■ 仕上がりがぬるかったときは

- レンジ|500W**(→P.35～37)で、様子を見ながら加熱します。

お酒の上手なあたためかた

手動

- **加熱時間の決めかた(→P.44)**
- **加熱前によくかき混ぜます**
- **テーブルプレートの中央に置きます**
2個以上を同時にあたためる場合は、テーブルプレート中央に寄せて置きます。
- **半分以下の少量であたためるときは**
加熱室から取り出した後でも、突然沸とう(突沸)して
飛び散りや、やけどをすることがあります。
手動調理(レンジ加熱)で様子を見ながら加熱します。
(→P.35～37)

■ 容器の種類と入れかたは

- 容器はコップまたは徳利を使います。
- コップであたためる場合は、7～8分目まで入れます。
- 徳利であたためる場合は、くびれた部分より1cm下くらいまで入れます。
- びん詰めのお酒は栓を抜きます。

■ 仕上がりがぬるかったときは

- レンジ|600W**(→P.35～37)で、様子を見ながら加熱します。

あたためる (オートメニュー)

コンビニ弁当のあたため

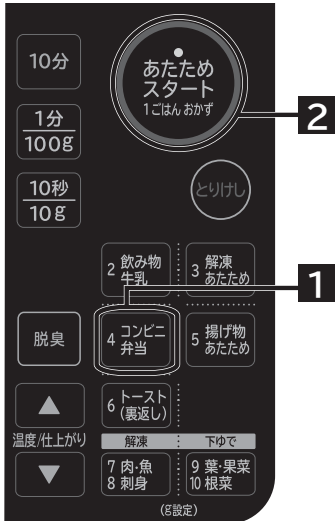
4 コンビニ弁当

あたためられる弁当はコンビニエンスストアなどで販売されている弁当です。

使用付属品



黒皿は使用しません



お知らせ ドアを開けると電源が入ります。

準備 コンビニ弁当をテーブルプレートの中央に置き、ドアを閉める

1 **4 コンビニ弁当** を押して **4 コンビニ弁当** を選ぶ
仕上がり調節を設定するときは(→P.17)

2 **あたためスタート** を押してスタートする

3 終了音が鳴ったら、食品を取り出す
加熱室が冷めてからお手入れをする(→P.45)

メニュー番号



弱・中・強

仕上がり調節

加熱時間計算中



弱・中・強



残り加熱時間: 食品によってかわります。



警告



禁止

ゆで卵や目玉焼きは破裂するおそれがあるので、加熱しない(加熱する前に取り除きます)

コンビニ弁当の上手なあたためかた

4 コンビニ弁当

■1回にあたためられる分量は

1個(1人分)です。冷蔵室から出した物は仕上がり調節 **やや強** または **強** に合わせます。

■加熱時間の目安は

弁当1個(約450g)で約1分30秒です。

■あたためられる弁当の種類は

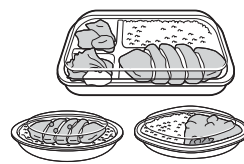
- 「幕の内弁当」のように、ごはんとおかずが分かれて入っている弁当
- 「のり弁当」や「さけ弁当」のように、ごはんの上に具がのっている弁当
- 「カツ丼」や「カレーライス」、「チャーハン」、「スパゲッティ」などの丼物

■あんかけ類(中華丼、あんかけ焼きそばなど)をあたためる場合

あんかけの具(いか、えび、うずらの卵など)が加熱中に破裂したりする場合があります。ふたを取り外し、これらの具を取り除いてから加熱し、加熱後に加えます。

■以下の弁当は**4 コンビニ弁当**ではあたためられません

- 電子レンジ加熱に使用できない容器を使用している弁当
紙や木でできた容器、アルミで加工された容器、発泡スチロール製の容器、ホッチキスなどで止めてある容器などを使用した弁当
- 弁当屋さんの持ち帰り弁当
使われている容器が耐熱容器ではない場合があるため
- 1種類ずつ小分けしているお総菜のパック、おにぎり
から揚げ・シューマイなど、お総菜のパックやおにぎりは、少量のためうまく仕上がりにません。手動調理 **レンジ 500W** で様子を見ながらあたためます。(→P.35~37,44)



揚げ物のあたため

5 揚げ物あたため

5 揚げ物あたため は常温や冷蔵保存の調理済み揚げ物の衣をサクッとあたためます。

使用付属品



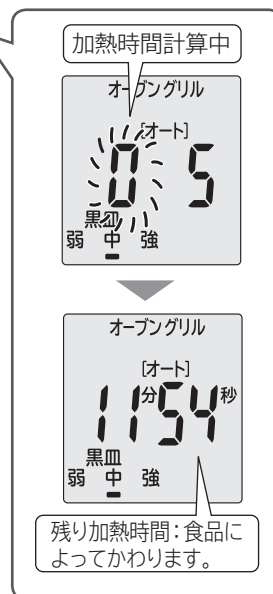
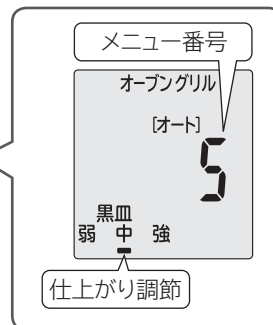
お知らせ ドアを開けると電源が入ります。

準備 食品を中央にのせた黒皿を上段に入れて、ドアを閉める

1 **揚げ物** を押して **5 揚げ物あたため** を選ぶ
仕上がり調節を設定するときは(→P.17)

2 **あたためスタート** を押してスタートする

3 終了音が鳴ったら、食品を取り出す
加熱室が冷めてからお手入れをする(→P.45)



オートメニュー

揚げ物の上手なあたためかた

5 揚げ物あたため

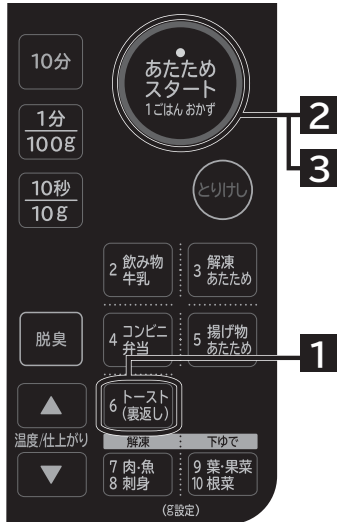
- **あたためられる食品は**
常温や冷蔵保存の揚げ物です。
- **1回にあたためられる揚げ物の分量は**
100～500gまでです。
- **冷凍の揚げ物はうまくあたたまりません**
[3 解凍あたため] (→P.24、25) を使ってください。
- **100g未満のあたためはできません**
100g以上にするか黒皿に並べて上段にセットし、**オープン** [予熱無] [180℃] (→P.41) で様子を見ながら加熱します。
- **加熱後に天ぷらなどの底面がベタつくときは**
キッチンペーパーなどで油分を取ります。

調理する (オートメニュー)

トーストする

6 トースト(裏返し)

6 トースト(裏返し)で焼けるパンは厚さ1.5～3cmの6枚切りの食パン2枚までです。4枚切りや8枚切りの食パンは「グリル」(→P.39)で様子を見ながら焼きます。



お知らせ ドアを開けると電源が入ります。

準備

食パンを黒皿の中央に置き、上段に入れてドアを閉める

1

6 トースト(裏返し)を押して「6 トースト(裏返し)」を選ぶ

枚数	1枚	2枚
並べかた		
仕上がり調節 / 加熱時間の目安	やや弱 約8分	中 約9分

仕上がり調節を設定するときは(→P.17)

2

あたためスタートを押してスタートする

3

裏返しの報知音が鳴ったらドアを開け、食パンを裏返してあたためスタートを押す
食パン・黒皿が熱くなっていますので、裏返す際はやけどにご注意ください。

- ドアが開けられるまでの2分間、30秒ごとに報知音が鳴ります。
- ドアが開けられるまで残り加熱時間が点滅し続けます。

4

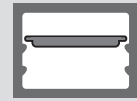
終了音が鳴ったら、すぐに取り出す

加熱室が冷めてからお手入れをする(→P.45)

お願い

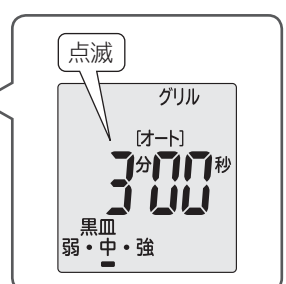
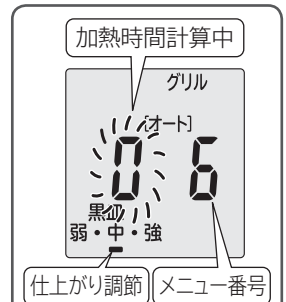
- 報知音が鳴ると操作を受け付けなくなります。一度ドアを開けてからあたためスタートを押してください。
- 報知音を「無音」に設定していると、裏返しの報知音が鳴りません。残り加熱時間が点滅しているのを確認してから、食パンを裏返してください。

使用付属品



黒皿 上段

例：2枚の場合



※トースターで焼くより時間がかかります。

注意



禁止

バター、ジャム等を多量に塗ったパンを焼かない
火災の原因になります



指示

黒皿の出し入れは、やけどのおそれがあるので、厚めの乾いたふきんやお手持ちのオープン用手袋を使う

- 取り出した黒皿は、熱に弱い場所には置かないでください
開いたドアの上に置きます
- 子供や幼児が触れないように気をつけてください
- 破れたオープン用手袋や水にぬれたふきんは使わないでください

6 トースト(裏返し)のコツ

6 トースト(裏返し)

■ 手で焼くときは

「グリル」4～7分で焼き、裏返して「グリル」1～3分で焼きます。
連続して焼くときは「グリル」2～3分で焼き、裏返して「グリル」1～2分で様子を見ながら焼きます。

■ 焼き色を変えたいときは

5段階の仕上がり調節で焼き加減を調節します。食パンの保存状態によって焼け具合が異なります。糖分や油脂分が多く含まれているものや厚い物は濃く焼けるため、仕上がり調節「弱」または「やや弱」で焼きます。

■ 冷蔵または冷凍保存した食パンは

6枚切りの食パンでも保存状態によって焼け具合にむらが出たり、中まであたたまりにくくなります。焼きが足りなかった方を上にして「グリル」で様子を見ながら焼きます。

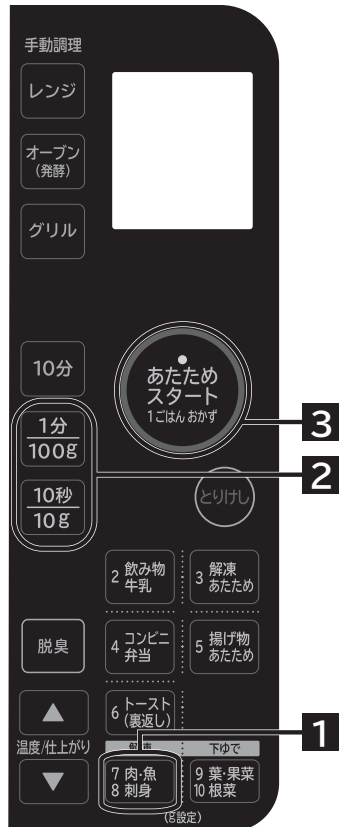
下ごしらえする (オートメニュー)

肉や魚、刺身の解凍

7 肉・魚 8 刺身

肉や魚の形状、種類などに合わせた解凍をします。

●冷凍室から取り出してすぐに加熱します。



お知らせ ドアを開けると電源が入ります。

準備

●冷凍保存した食品のラップなどの包装を外し、発泡スチロール製のトレーにのせる

トレーがない場合は、ラップなどの包装を外し、テーブルプレートにオープンシートかキッチンペーパーを敷き、その上に冷凍保存した食品をのせます

●食品をのせたトレーをテーブルプレートの中央に置き、ドアを閉める

1 **7 肉・魚** または **8 刺身** を選ぶ

● **7 肉・魚** を押すごとに **7 肉・魚** ▶ **8 刺身** の順に選べます。

●約2秒後にグラム表示に切りかわります。

2 **100g** を押し重量(グラム)を選ぶ

●初期設定は「100g」です。

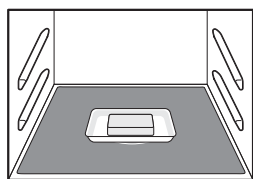
●仕上がり調節を設定するときは(→P.17)

3 **あたためスタート** を押してスタートする

4 終了音が鳴ったら、食品を取り出す

加熱室が冷めてからお手入れをする(→P.45)

冷凍した肉や魚の置きかた
テーブルプレートの中央に置く

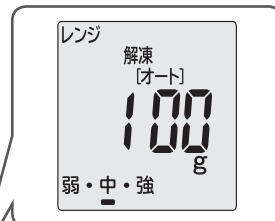
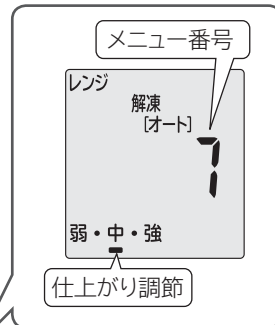


使用付属品



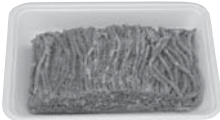

黒皿は使用しません

例: **7 肉・魚** **100g** の場合



残り加熱時間:メニューによってかわります。

解凍後の用途に合わせてオートメニューを使い分けます

解凍後の用途	オートメニュー	解凍後は
肉・魚を解凍後、調理する	7 肉・魚 ひき肉やかたまり肉は やや強 で加熱します。	薄切り肉は両手で大きくしなませます。 
刺身を解凍後、生で食べる	8 刺身	中心が少し凍った状態に仕上がります。包丁で切りやすく、食卓で食べごろになります。 

下ごしらえする (オートメニュー)

肉や魚、刺身の解凍(つづき)

上手な解凍のしかた

■1回に解凍できる分量は、100～600gです

分量が多過ぎると、うまく解凍できません。減らしてください。

■発泡スチロール製のトレーにのった物はラップなどの包装を外し、トレーにのせたままテーブルプレートにのせたまま中央に置きます

●トレーがない場合は、ラップなどの包装を外し、テーブルプレートにオープンシートかキッチンペーパーを敷き、その上にのせます。

●陶磁器や耐熱容器などは使わないでください。解凍し過ぎになり、うまく解凍できません。

■冷凍室から取り出して、すぐに加熱します

■加熱室やテーブルプレートを、十分冷ましてから解凍してください

加熱室が熱いと表示部に「[05]」が表示され加熱できません。オープン・グリル使用後は加熱室やテーブルプレートが熱くなっています。熱いままでは、トレーが溶けたり、解凍し過ぎになります。

■解凍後、そのまま3～5分おき自然解凍します

■形や厚みが均一でない物はアルミホイルを使って解凍します

アルミホイルは加熱室壁面やドアガラスに触れないようにしてください。触れると火花(スパーク)が出てテーブルプレートやドアガラスが破損するおそれがあります。

形状、太さ、厚み、種類	アルミホイルを巻く部分
太さや厚みが不均一	細い部分、薄い部分
大きなかたまり	側面
魚	頭と尾



次の場合は手動調理(レンジ加熱)(→P.35～37)で途中様子を見ながら解凍します

調理済み冷凍食品や冷凍野菜

レンジ 200W で加熱する。

解凍の目安は200gで4～5分です。

- 分量が100g未満の場合
- バラバラになって凍っている物
- 解凍が足りなかったとき
- 20℃以下の冷凍食品

レンジ 100W で加熱する。



溶けかけている食品

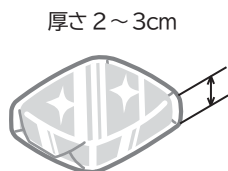
レンジ 100W または
レンジ 200W で加熱する。

上手な冷凍保存(フリージング)のコツ

■材料は新鮮な物を

■冷凍する分量と形は

1回分ずつ(200～300g)に分け、2～3cmの厚さで、極端に薄くならないように平らな形にひとまとめにします。



■薄くて細長い形状の肉は

煮えてしまうことがあるので、折りたたんで2～3cmの厚さの平らな形にして冷凍します。

■ブロック肉などの厚みが不均一な肉は折り込んで厚みを均一にして冷凍します。

■ラップなどで、ぴったり密封をします
ラップで包むときは、ラップが食品の間に入らないように包むとはがしやすくなります。

■バランなどの飾りや敷き物は取り除きます

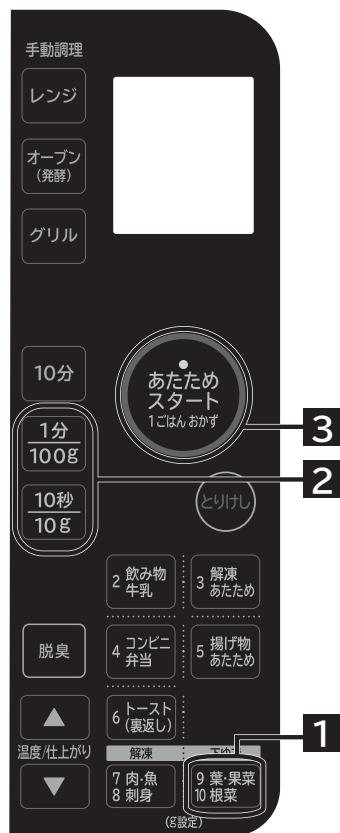
■魚の下ごしらえは

魚はうろこやえら、内臓を取り除き、塩水で洗って水けをふき取り、1尾ずつ冷凍します。

野菜の下ゆで

9 葉・果菜 10 根菜

野菜の種類に合わせた下ゆでをします。



お知らせ ドアを開けると電源が入ります。

準備

- 野菜をラップでぴったり包む
- テーブルプレートの中央に直接置き、ドアを閉める

使用付属品



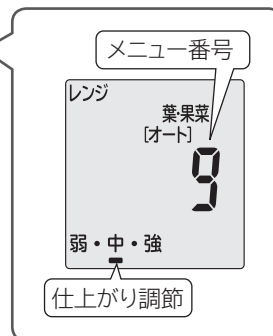
黒皿は使用しません

例：9 葉・果菜 100g の場合

1

9 葉・果菜 10 根菜 を押し 9 葉・果菜 または 10 根菜 を選ぶ

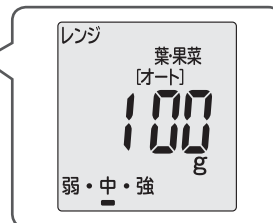
- 9 葉・果菜 を押すごとに 9 葉・果菜 ▶ 10 根菜 の順に選べます。
- 約2秒後にグラム表示に切りかわります。



2

1分 100g 10秒 10g を押し重量(グラム)を選ぶ

- 初期設定は「100g」です。
- 仕上がり調節を設定するときは(→P.17)



3

あたためスタート 1こはん おかず を押ししてスタートする



4

終了音が鳴ったら、食品を取り出す

加熱室が冷めてからお手入れをする(→P.45)



注意



禁止

分量が100g未満のときはオートメニューで加熱しない
火災の原因になります
レンジ 500W (→P.35~37) で様子を見ながら加熱します



禁止

キッチンペーパーなどの紙類で包んで加熱しない
火災の原因になります

オートメニュー

下ごしらえする(オートメニュー)

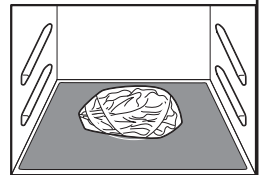
野菜の下ゆで(つづき)

上手な野菜のゆでかた

9 葉・果菜 10 根菜

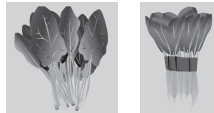
■水けを切らずラップでぴったりと包み、テーブルプレートの中央に直接置いて加熱します

皿などの上のせて加熱すると加熱し過ぎの原因になります。



■加熱できる分量は 9 葉・果菜 は100～300g、 10 根菜 は100～600gです

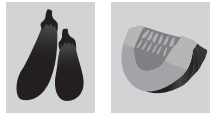
葉菜



9 葉・果菜

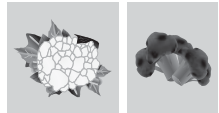
ほうれん草、小松菜など葉が食べられる物

果菜



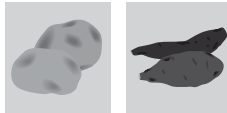
なす、かぼちゃなど果実や種子が食べられる物

花菜



カリフラワー、ブロッコリーなど花弁やつぼみが食べられる物

根菜



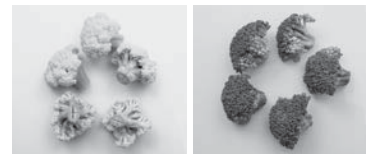
10 根菜

じゃがいも、さつまいもなど地中にある根茎や根が食べられる物

■料理に合わせた下ごしらえを

葉菜、果菜、花菜の根元の太い物には、十文字の切り目を入れ、房になっている物は小房に分けます。

根菜類は、同じ大きさに切りそろえ、なるべく同じ大きさの物を選びます。



■材料に合ったアク抜きを

ほうれん草などは、加熱後すぐに水に取ります。なすやカリフラワーなどは、加熱前に薄い塩水や酢水にさらしてアク抜きをします。



■ラップでの包みかた

- ほうれん草などの葉菜
茎と葉を交互にして重ね、ラップでしっかりと包みます。
- ブロッコリーなどの果菜、花菜
小房に分け、重ならないようにし、ラップの上にすき間を作らないように並べて、ぴったりと包みます。
- じゃがいもなどの根菜を丸のまま
中央をあけてラップでぴったりと包みます。
加熱後は上下をひっくり返して3～5分程度そのままおきます。
- アスパラガス
はかまを外し、穂先と根元を交互にし、包みます。



■仕上がり調節は

- さいの目切りや薄切りにした場合
仕上がり調節 **弱** に合わせます。
- にんじん、さつまいも
仕上がり調節 **弱** に合わせます。太い場合は仕上がり調節 **中** に合わせます。
- かぼちゃ
仕上がり調節 **強** に合わせます。
- アスパラガス
仕上がり調節 **やや強** に合わせます。

レンジ加熱する (手動調理)

800W~100Wのレンジ加熱

レンジの [800W] [600W] [500W] [200W] [100W] から選びます。

●レンジ [1000W] は手動調理では設定できません。

一部のオートメニューでのみ働きます。

使用付属品

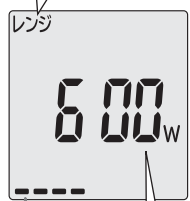


黒皿は使用しません

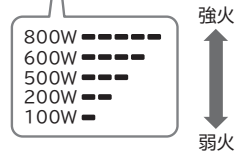
例: レンジ600Wで1分20秒加熱する場合

レンジ : 2回

加熱方法



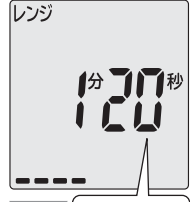
レンジ出力(W)



強火
弱火

1分100g : 1回

10秒10g : 2回



加熱時間



残り加熱時間

お知らせ ドアを開けると電源が入ります。

準備

食品をテーブルプレートの中央に置き、ドアを閉める

1

レンジ を押して「出力(W)」を選ぶ

レンジ を押すごとに以下の順に表示されます。

レンジ800W▶レンジ600W▶レンジ500W▶
レンジ200W▶レンジ100W

2

10分 1分100g 10秒10g を押して「加熱時間」を選ぶ

加熱時間

出力	加熱時間
[800W]	10秒~ 3分
[600W] [500W]	10秒~19分50秒
[200W] [100W]	10秒~90分

設定できる単位時間(→P.44)

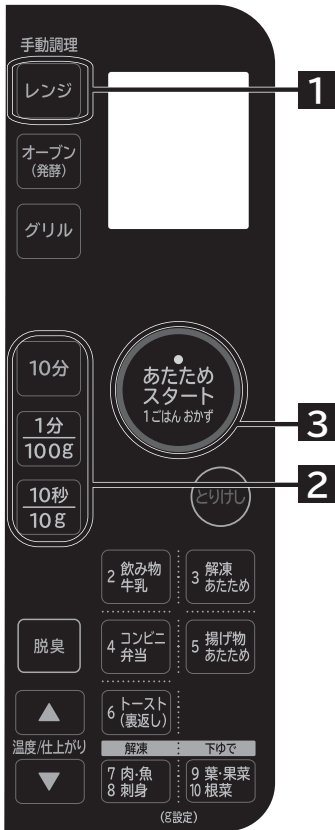
3

あたためスタート を押してスタートする

4

終了音が鳴ったら、食品を取り出す

加熱室が冷めてからお手入れをする(→P.45)



警告



生卵やゆで卵(殻つき・殻なしとも)、目玉焼きは加熱しない

卵が破裂してテーブルプレートやドアガラスが破損するおそれがあります

卵を加熱する場合は、溶きほぐしてから加熱する



生卵



ゆで卵



黄身や目玉焼き

レンジ加熱する(手動調理)

800W~100Wのレンジ加熱(つづき)

加熱時間の決めかた

- 常温(約20℃)の食品の **レンジ 600W** の加熱時間の目安(100g当たり)

同じ分量でも食品の種類によって加熱時間は異なります。

食品の種類		生からの調理	あたため	食品の種類	生からの調理	あたため
野菜類	葉・果菜類 	1分~ 1分30秒	50秒~ 1分10秒	めん類 	———	50秒~ 1分10秒
	根 菜 	1分30秒~ 2分	50秒~ 1分10秒	揚げ物 (フライ、コロッケなど) 	———	40~50秒
魚介類 	1分30秒~ 2分	50秒~ 1分10秒	汁物 (みそ汁・スープなど) 	———	1分10秒~ 1分30秒	
肉 類 	1分50秒~ 2分30秒	1分~ 1分30秒	飲み物 (お酒・牛乳など) 	———	40秒~1分	
ごはん類 	———	40~50秒	パン・ まんじゅう 	———	30~50秒	

- 食品の分量に比例した加熱時間にします。
分量が2倍の時は時間も2倍が目安です。
- 使う容器によっても違います。
容器の材質や大きさ、形状によっても加熱時間は多少違ってきます。
- 加熱前の食品温度によっても違います。
同じ食品でも、冷蔵室や冷凍室から出して使う場合は、時間がかかります。
常温(約20℃のとき)の加熱時間に対して、冷蔵は約1.3倍、冷凍は約2.3倍が目安です。
また、夏と冬では多少加熱時間が違います。
- **レンジ 500W** で加熱する場合の加熱時間は、約1.2倍にします。
(食品温度が常温(約20℃)のとき)

少量の食品(100g未満)を加熱する場合

レンジ 500W で加熱時間を20~50秒に設定し、様子を見ながら加熱します。特に小さく切ったにんじんなど野菜が少量(100g未満)のときに、乾燥したり、火花(スパーク)が出て焦げたりすることがあります。水を多めにふりかけてラップに包むか、皿などに広げひたるくらいの水を入れてラップでおおい、加熱します。

はじけや飛び散りなどを防ぐ加熱のしかた

以下の物は、はじけや飛び散ることがあるので、調理の時に工夫します。

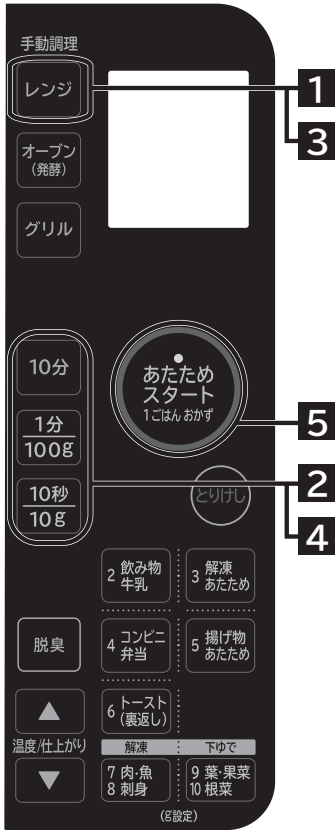
食品の種類と調理のコツ		
皮や殻つきの物	いか、たこ、えびなど 	<ul style="list-style-type: none"> ●表面に切り目を入れる。 ●レンジ 200W で控えめに加熱する。
	栗、ぎんなん 	<ul style="list-style-type: none"> ●殻に割り目を入れる。 ●ラップなどのおおいをする。
マッシュルーム		半分に切る。
ひじき		<ul style="list-style-type: none"> ●ラップなどのおおいをする。 ●レンジ 200W で控えめに加熱する。
100g未満のさいの目野菜 (約1cm角)		<ul style="list-style-type: none"> ●水を多めにふりかける。 ●ラップなどのおおいをする。 ●レンジ 500W で様子を見ながら加熱する。 
とろみのある物 (シチュー・カレーなど)		<ul style="list-style-type: none"> ●加熱前によくかき混ぜる。 ●ラップなどのおおいをする。   <p>加熱前</p>

レンジ加熱する(手動調理)

リレー加熱(加熱途中で強い加熱から弱い加熱に下げる)

レンジの **800W** **600W** **500W** から途中で自動的に **200W** **100W** にする加熱です。

●煮込み調理や炊飯などに使う加熱方法です。



お知らせ ドアを開けると電源が入ります。

準備

食品をテーブルプレートの中央に置き、ドアを閉める

1

レンジ を押し、「レンジ800W」「レンジ600W」または「レンジ500W」を選ぶ

● **レンジ** を押すごとに以下の順に表示されます。

レンジ800W▶レンジ600W▶レンジ500W▶
レンジ200W▶レンジ100W

●「レンジ200W」「レンジ100W」を選ぶと、リレー加熱はできません。

2

10分 **1分100g** **10秒10g** を押して「加熱時間」を選ぶ

3

レンジ を押し、「レンジ200W」または「レンジ100W」を選ぶ

● **レンジ** を押すごとに以下の順に表示されます。

レンジ200W▶レンジ100W

4

10分 **1分100g** **10秒10g** を押して「加熱時間」を選ぶ

加熱時間：10秒～90分

設定できる単位時間(→P.44)

5

あたためスタート (1はんおかず) を押してスタートする

6

終了音が鳴ったら、食品を取り出す

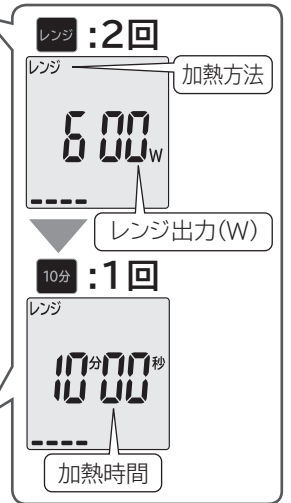
加熱室が冷めてからお手入れをする(→P.45)

使用付属品



黒皿は使用しません

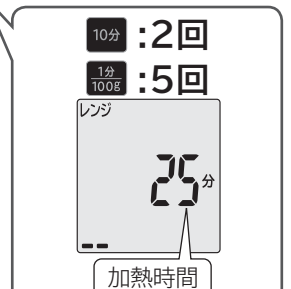
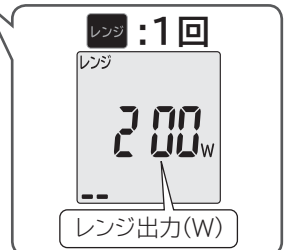
例：レンジ600Wで10分加熱後、レンジ200Wで25分加熱する場合



加熱時間

出力	加熱時間
800W	10秒～3分
600W	10秒～
500W	19分50秒

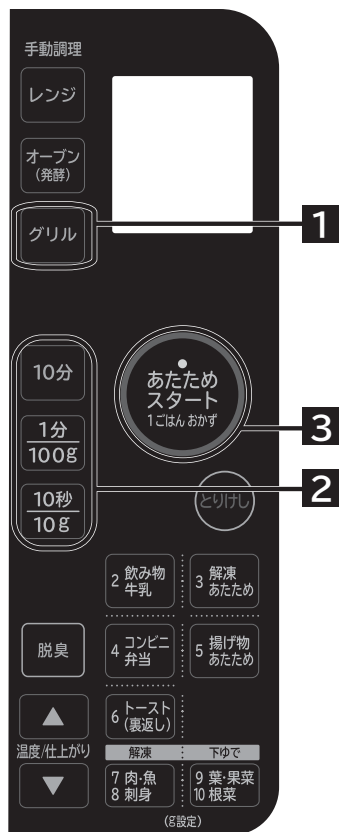
設定できる単位時間(→P.44)



手順**1**の出力がスタートし、続いて手順**3**の出力がスタートします。

グリル加熱する(手動調理)

食品の上面に焼き色をつけながら焼きます。



お知らせ ドアを開けると電源が入ります。

準備 食品をのせた黒皿を皿受棚にセットし、ドアを閉める

1 **グリル** を押して「グリル」を選ぶ

2 **10分** **1分/100g** **10秒/10g** を押して「加熱時間」を選ぶ
加熱時間：10秒～40分
設定できる単位時間(→P.44)

3 **あたためスタート** を押してスタートする

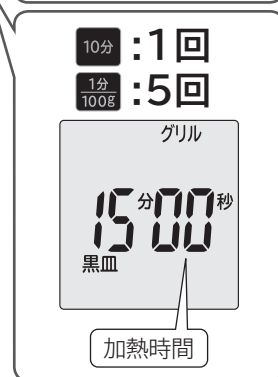
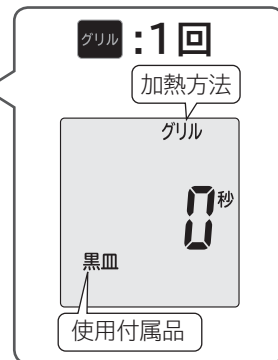
4 終了音が鳴ったら、食品を取り出す

加熱室が冷めてからお手入れをする(→P.45)
調理後の加熱室の油污れや臭いが気になるときは**脱臭**で加熱する。(→P.15)

使用付属品



例：グリルで15分加熱する場合



注意



黒皿の出し入れは、やけどのおそれがあるので、厚めの乾いたふきんやお手持ちのオーブン用手袋を使う

●取り出した黒皿は、熱に弱い場所には置かないでください

開いたドアの上に置きます

●子供や幼児が触れないように気をつけてください

●破れたオープン用手袋や水にぬれたふきんは使わないでください

グリルの上手な使いかた

焼ける食品	切り身の魚など ●焼きもち、内臓を取り除いていない丸身の魚はうまく焼けません。
並べかた/焼きかた	途中で裏返す ●切り身の魚などは、盛りつけたとき下になる面を上にして焼き、途中で裏返してさらに焼きます。黒皿の汚れや、身のくっつきが気になるときは、アルミホイルまたはオープンシートを敷いてください。

アルミホイル



■手動の**グリル**は、下面に焼き色はつきません。焼き色を両面につけたい場合は、途中で裏返してください。

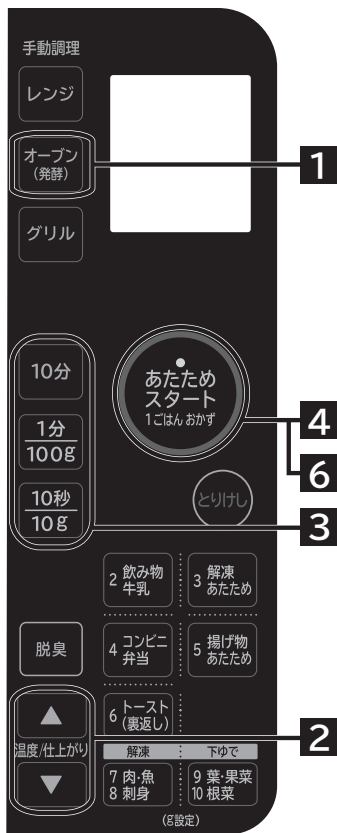
■**グリル**加熱中に **REVERSE** を押すと、1分単位で増減できます。焼き上がりの調整にお使いください。

- 加熱時間が40分でスタートした場合は増やせません。
- 残り時間が1分未満の場合は増減できません。

オーブン加熱する(手動調理)

予熱有

先に加熱室を予熱して「オーブン」で調理します。



手動調理

お知らせ ドアを開けると電源が入ります。

準備

食品をのせた黒皿を用意する

手順4の予熱が終わったら加熱室に入れます

1

「**オーブン(発酵)**」を押して「**オーブン予熱有(予熱表示あり)**」を選ぶ

- 押すごとに「オーブン予熱有(予熱表示あり)」◀▶「オーブン予熱無(予熱表示なし)」が切りかわります。
- 約2秒後に時間表示に切りかわりますが、そのまま手順2に進みます。

2

「**温度(上がり)**」を押して「**温度**」を選ぶ

- 温度：100～210℃(10℃単位)、250℃
- 250℃の運転時間は約5分です。その後は自動的に210℃に切りかわります。
- 加熱室が熱い場合、最大設定温度は210℃です。

3

「**10分**」「**1分/100g**」「**10秒/10g**」を押して「**加熱時間**」を選ぶ
加熱時間：10秒～90分
設定できる単位時間(→P.44)

4

「**あたためスタート**」を押して予熱する

- 予熱中は節電のため庫内灯を消灯しています。予熱中に加熱室の様子を見たいときは「**あたためスタート**」を押すと点灯します。消灯させるときは、「**あたためスタート**」を押してください。
- 設定した温度になると予熱は終了します。最大予熱時間は25分です。予熱が終わってそのままにしておくと、約10分後に庫内灯が消灯したまま選択した時間を加熱します。

5

予熱終了音が鳴ったら、ドアを開け、食品をのせた黒皿を皿受棚にセットし、ドアを閉める

食品に合わせて皿受棚を使い分けます。

6

「**あたためスタート**」を押してスタートする

7

終了音が鳴ったら、食品を取り出す

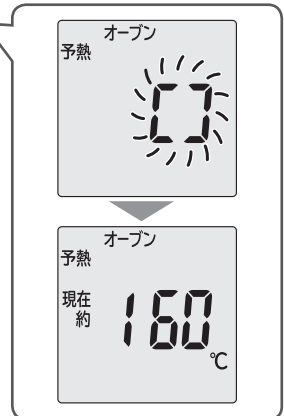
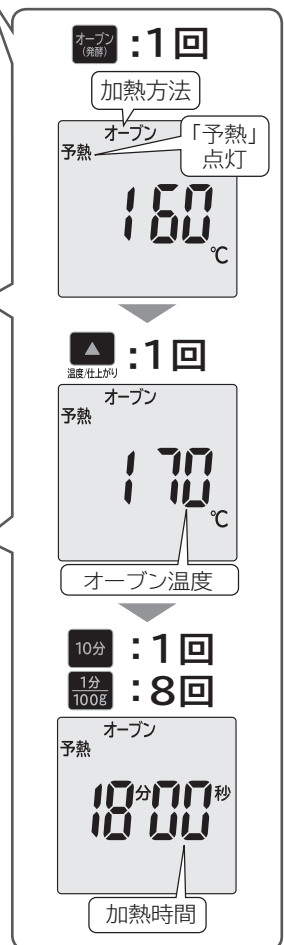
加熱室が冷めてからお手入れをする(→P.45)
調理後の加熱室の油汚れや臭いが気になるときは「**脱臭**」で加熱する。(→P.15)

使用付属品



黒皿 上・下段

例：オーブン「予熱有」
170℃で18分加熱する場合



注意



指示

黒皿の出し入れは、やけどのおそれがあるので、厚めの乾いたふきんやお手持ちのオーブン用手袋を使う

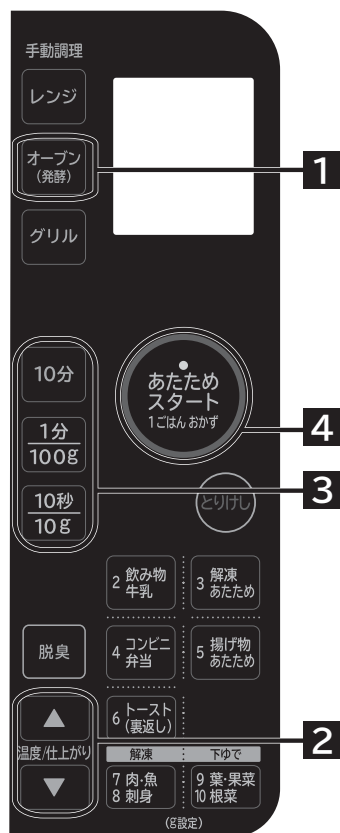
- 取り出した黒皿は、熱に弱い場所には置かないでください
開いたドアの上に置きます
- 子供や幼児が触れないように気をつけてください
- 破れたオーブン用手袋や水にぬれたふきんは使わないでください

オーブンの上手な使いかた

食品の焼き色を調節するため、加熱途中で温度と加熱時間をかえることができます。(→P.41)

予熱無

加熱室を予熱しないで「オープン」で調理します。



お知らせ ドアを開けると電源が入ります。

準備 食品をのせた黒皿を皿受棚にセットし、ドアを閉める
食品に合わせて皿受棚を使い分けます

1 「オープン」を2回押して「オープン予熱無（予熱表示なし）」を選ぶ
●押すごとに「オープン予熱有（予熱表示あり）」⇄「オープン予熱無（予熱表示なし）」が切りかわります。
●約2秒後に時間表示に切りかわりますが、そのまま手順**2**に進みます。

2 ▲▼を押して「温度」を選ぶ
●温度：100～210℃（10℃単位）、250℃
●250℃の運転時間は約5分です。その後は自動的に210℃に切りかわります。
●加熱室が熱い場合、最大設定温度は210℃です。

3 10分 1分/100g 10秒/10g を押して「加熱時間」を選ぶ
加熱時間：10秒～90分
設定できる単位時間（→P.44）

4 あたためスタート（1こはんおかず）を押してスタートする

5 終了音が鳴ったら、食品を取り出す
加熱室が冷めてからお手入れをする（→P.45）
調理後の加熱室の油污れや臭いが気になるときは「脱臭」で加熱する。（→P.15）

使用付属品



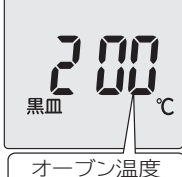
例：オープン「予熱無」
200℃で30分加熱する場合



加熱方法



温度（上がり）



加熱時間



残り加熱時間

注意



指示

黒皿の取り出しは、やけどのおそれがあるので、厚めの乾いたふきんやお手持ちのオープン用手袋を使う

- 取り出した黒皿は、熱に弱い場所には置かないでください
開いたドアの上に置きます
- 子供や幼児が触れないように気をつけてください
- 破れたオープン用手袋や水にぬれたふきんは使わないでください

オープンの上手な使いかた

食品の焼き色を調節するため、加熱途中で温度と加熱時間を変えることができます。

- 「オープン」加熱中に「オープン」を押すと、セットした温度が表示されます。▲▼を押して温度を変えることができます。約5秒後に時間表示に戻ります。
- 「オープン」加熱中に▲▼を押すと、1分単位で加熱時間の増減ができます。加熱時間を90分でスタートした場合は増やせません。残り時間が1分未満の場合は増減できません。

発酵する (手動調理)

オーブン発酵

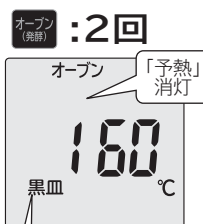
パンの生地などの発酵をします。

使用付属品



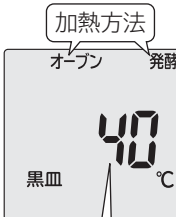
黒皿 下段

例：オーブン発酵「予熱無」40℃で50分加熱する場合



使用付属品

温度上がり
▼ : 8回



オーブン発酵温度

10分 : 5回



加熱時間

お知らせ ドアを開けると電源が入ります。

準備 食品をのせた黒皿を皿受棚にセットし、ドアを閉める

1 **オーブン (発酵)** を2回押して「オーブン予熱無 (予熱表示なし)」を選ぶ

- 押すごとに「オーブン予熱有 (予熱表示あり)」◀▶「オーブン予熱無 (予熱表示なし)」が切りかわります。
- 約2秒後に時間表示に切りかわりますが、そのまま手順**2**に進みます。

2 **温度上がり** を押して「発酵温度」を選ぶ

- 温度：30～45℃ (5℃単位)
- 「オーブン予熱有 (予熱表示あり)」を選んでいると100℃未満は選べません。

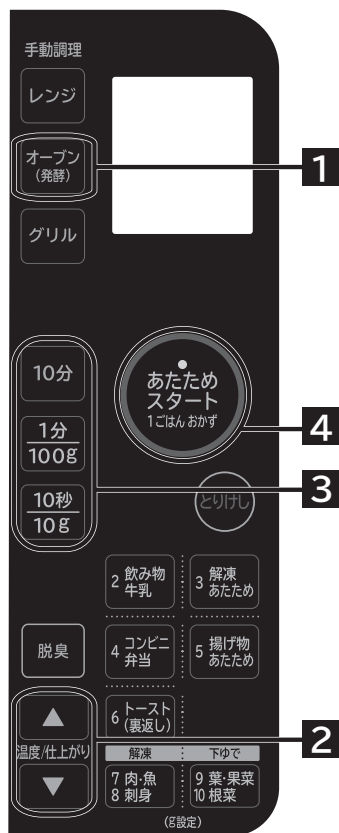
3 **10分** **1分** **10秒** を押して「加熱時間」を選ぶ

加熱時間：10秒～90分
設定できる単位時間(→P.44)

4 **あたためスタート** を押してスタートする

5 終了音が鳴ったら、食品を取り出す

加熱室が冷めてからお手入れをする(→P.45)



手動調理の加熱時間の目安

レンジ調理

次のページは「ごはん・お総菜のあたため」「冷凍食品の解凍あたため」

野菜下ゆで

- ラップの有無の「-」は、ラップをしなくても良いことを示す。
- オートメニューで調理する場合、葉菜、果・花菜は「9 葉・果菜」で、根菜は「10 根菜」で加熱します。(→P.33, 34)

メニュー名	調理のコツ	手動調理の目安 (レンジ600W)		ラップの有無
		分量	加熱時間	
葉菜	ほうれん草 小松菜・春菊	200g	2分~2分30秒	有
	白菜・もやし キャベツ			
果・花菜	カリフラワー ブロッコリー	200g	2分30秒~3分	有
	なす			
	アスパラガス			
	さやいんげん さやえんどう			
	とうもろこし			
かぼちゃ	1本(300g)	5~6分	有	
	200g	3分~3分30秒		
根菜	にんじん さつまいも	200g	約4分	有
	里いも			
	ごぼう れんこん			
	じゃがいも 大根			
	300g	6~7分		

生ものの解凍

メニュー名	分量	加熱時間 レンジ100W	ラップの有無
まぐろ(ブロック)	200g	4~6分	-
いか(ロール)	100g	2~3分	-
えび	10尾(約200g)	3~5分	-
切り身魚	1切れ(約100g)	2~3分	-
ひき肉	200g	5~7分	-
薄切り肉	200g	4~6分	-
鶏もも肉(骨なし)	250g	6~7分	-
鶏もも肉(骨あり)	250g	7~8分	-

ゆでて冷凍した野菜の解凍

メニュー名	分量	加熱時間 レンジ600W	ラップの有無
ミックスベジタブル	200g	1分50秒~2分10秒	-
さやいんげん	200g	約2分	-

- 解凍は発泡スチロール製のトレーにのせて加熱します。
- 加熱後、3~5分放置して自然解凍します。

冷凍食品の解凍あたため

メニュー名	分量	加熱時間 レンジ600W	ラップの有無
冷凍ごはん(2~3cm厚さのかたまり)	1杯分(150g)	2分~2分40秒	有
冷凍おにぎり(かたまり)	1個(150g)	2分~2分40秒	有
冷凍ピラフ(パラパラの物)	1人分(250g)	3分20秒~4分	有
冷凍スパゲッティ	1人分(250g)	3分20秒~4分	有
冷凍ハンバーグ	1個(100g)	2分30秒~3分	有
冷凍フライ	2~4個(100g)	1分50秒~2分	-
冷凍シューマイ	12個(170g)	3分~4分20秒	有
冷凍肉だんご(甘酢あんかけ)	1袋(200g)	2分~3分20秒	有
冷凍カレー・シチュー	1人分(200g)	3分50秒~4分	有
冷凍ミックスベジタブル	200g	2分~2分40秒	有
冷凍さやいんげん	200g	2分40秒~3分	有
冷凍枝豆・かぼちゃ	200g	2分~3分20秒	有
冷凍スイートコーン	1本(400g)	6分~7分20秒	有
冷凍あんまん・肉まん	各1個(80g)	50秒~1分20秒	有

- ミックスベジタブルや枝豆は、水にくぐらせて皿に広げて加熱します。少量(100g未満)をラップに包んで加熱すると、火花(スパーク)が発生して食品が焦げたり、乾燥することがあります。水を多めにふりかけてラップに包むか、皿などに広げ、ひたるくらいの水を入れてラップでおおい、加熱します。(「少量の食品(100g未満)を加熱する場合」(→P.36)参照)
- 市販の冷凍食品(フライやコロケなど)を加熱するときは、食品メーカーが指示するトレーや容器に入れて、テーブルプレートの中央に寄せて置きます。加熱時間は、食品メーカーが表示している「レンジ600W」または「レンジ500W」の時間を目安にして、加熱します。

手動調理の加熱時間の目安(つづき)

レンジ調理(つづき)

ごはん・お総菜のあたため

焼き魚や煮魚、カレーやシチューのあたためは、加熱中に飛び散ることがあるのでラップをします。

メニュー名	分量	加熱時間 レンジ 600W	ラップ の有無
ごはん	1杯(150g)	50秒~1分	-
おにぎり	1個(150g)	約1分	-
チャーハン・ピラフ	1人分(各250g)	約1分50秒	-
スパゲッティ・焼きそば	1人分(各250g)	約2分40秒	-
焼き魚	1人分(100g)	約1分	有
ハンバーグ	1個(100g)	約1分	-
フライ	2~4個(100g)	40~50秒	-
クロック	2個(150g)	50秒~1分	-
野菜のいため物	1人分(200g)	約1分50秒	-
八宝菜	1人分(300g)	約2分40秒	-
野菜の煮物	1人分(200g)	1分50秒~2分	-
煮魚	1切れ(100g)	約50秒	有

メニュー名	分量	加熱時間 レンジ 600W	ラップ の有無
シューマイ	1人分(200g)	約1分50秒	-
みそ汁・コンソメスープ	1人分(150g)	1分~1分50秒	-
カレー・シチュー	1人分(各200g)	約1分50秒	有
ポタージュスープ	1人分(150g)	1分40秒~2分	-
牛乳	1杯(200mL)	約1分40秒	-
コーヒー	1杯(150mL)	約1分10秒	-
お酒	1本(180mL)	50秒~1分	-
ハンバーガー	1個(100g)	30~40秒	-
ホットドッグ	1本(80g)	20~30秒	-
バターロール	2個(80g)	約20秒	-
あんまん・肉まん	各1個(80g)	30~40秒	有
まんじゅう	2個(100g)	20~30秒	-
コンビニ弁当	1個(500g)	1分40秒~2分	-

- あんまん、肉まんのあたためは、底の紙を取り、サッと水にくぐらせてから、ゆとりをもってラップで包み、皿にのせて加熱します。
- パンやまんじゅうのあたためは、時間がたつとかたくなるので、食べる直前に加熱します。

オーブン・グリル調理

代表メニューのみ記載しています。
手動で調理をするときは、類似したメニューを参照してください。

メニュー名	分量	皿受棚	温度	加熱時間	
				予熱有	予熱無
焼き物 ハンバーグ	4個	黒皿・上段	250℃	-	28~34分
焼き魚 塩づけ	4切れ		グリル	-	23~33分
グラタン マカロニグラタン	4皿	黒皿・下段	210℃	-	24~30分
ケーキ スポンジケーキ (デコレーションケーキ)	直径15cm		150℃	30~35分	-
	直径18cm			35~40分	
	直径21cm			36~42分	
ピザ ピザ(パン生地)	黒皿1枚	180℃	20~25分	-	

- 黒皿を皿受棚に入れて使用します。
- 作りかたは、Webレシピ集を参照してください。
- 焼きむらが気になるときは、加熱途中で食品の前後を入れかえたり、黒皿の前後を入れかえます。入れかえるタイミングは、加熱時間の $\frac{2}{3}$ ~ $\frac{3}{4}$ が経過してからにしてください。
- 市販の料理ブックのオーブン調理や市販の生地を使うときは、Webレシピ集の類似したメニューの温度と時間を参照して、手動調理で様子を見ながら焼いてください。
- 焼き魚類は、焼き時間の $\frac{3}{4}$ を経過してから裏返しをしてさらに焼きます。
- 黒皿の汚れが気になるときは、オーブンシートまたはアルミホイルを敷きます。

手動調理で設定できる単位時間

レンジ

出力	設定時間	単位時間
800W	10秒~3分	10秒
600W	10秒~19分50秒	10秒
500W		
200W	10秒~20分	10秒
100W	20分~90分	1分

オーブン

設定時間	単位時間
10秒~20分	10秒
20分~90分	1分

オーブン発酵

設定時間	単位時間
10秒~20分	10秒
20分~90分	1分

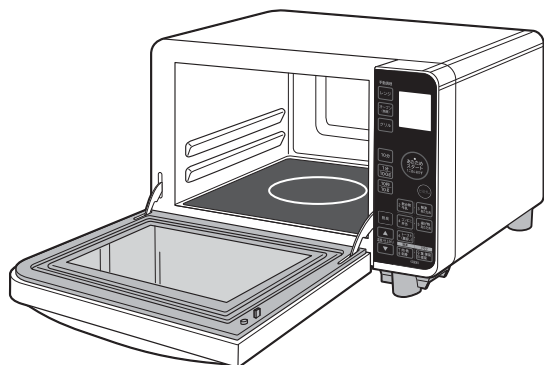
グリル

設定時間	単位時間
10秒~20分	10秒
20分~40分	1分

本体をお手入れする(水滴や汚れをとる)

本体

お手入れは**すぐにこまめに**がポイントです。



テーブルプレート

かたく絞ったぬれがきんでふきます

- ふきんで取れにくい汚れは、市販のクリームクレンザー(研磨剤入り)少量をラップにつけてこすると、取りやすくなります。
- 外周に充填してあるシール材は強くこすらないでください。剥がれることがあります。

衝撃を加えると割れるおそれがあります。

- 割れたり、ひびが入ったときは、そのまま使用せず、お買い上げの販売店にご相談ください。そのまま使用すると故障の原因になります。

⚠️ 注意



禁止

加熱室内壁、ドアガラス、テーブルプレートに食品くずや油分、汁をつけたままにしない

火花(スパーク)が出たり、さびや悪臭・破損・発煙・火災の原因になります
加熱室内は塗装コート処理がしてあります傷つきやすいので、たわしなどかたい物でこすらないでください



禁止

キャビネットやドア、操作パネル、加熱室内に水をかけない
感電、故障の原因になります



禁止

管ヒーター(上)やテーブルプレートに衝撃を加えない
けが・感電・破損の原因になります

外側・ドア前面

柔らかい布でふき取ります

- 汚れがひどいときは、台所用中性洗剤をつけた布でふき取り、その後必ず、かたく絞ったぬれがきんで洗剤をよくふき取ります。
- スポンジたわしのかたい面でこすらないでください。

加熱室内壁・ドア内側

かたく絞ったぬれがきんでふきます

- 加熱室内についた水滴はかたく絞ったぬれがきんでふき取ります。
- 汚れがひどいときは、台所用中性洗剤をつけた布でふき取り、その後かたく絞ったぬれがきんで洗剤をよくふき取ります。
- ドア内側ははめ合い部にすき間があるため、飲み物や汁物をこぼさないように注意してください。
- 内壁にシミが残りますが性能上問題ありません。
- 加熱室内に食品くずや煮汁などが付いたまま使い続けると壁面に汚れがこびりついて落ちなくなります。こまめにお手入れを行ってください。
- 管ヒーター(上)は押ししたり、強くこすったりしないでください。衝撃を加えると割れるおそれがあります。割れたり、ひびが入ったときは、そのまま使用せず、お買い上げの販売店にご相談ください。そのまま使用すると、けがや感電の原因になります。

付属品

黒皿は台所用中性洗剤をつけたスポンジで汚れを落とし、水洗いして水けを十分にふき取ります。

- 黒皿はお酢や重曹などの酸性やアルカリ性の水溶液に浸しておくとう表面が白化する場合があります。

脱臭(加熱室の臭いをとる)

加熱室の臭いの原因を焼き切って脱臭します。

- 窓を開けるか換気扇を回してください。加熱室内の臭いが気になるときに行ってください。「空焼き(脱臭)をする」(→P.15)

お願い (加熱室内壁・ドア内側・テーブルプレート)

■次のものは塗装がはげたり、傷付いたりするため使わないでください。

- シンナー、ベンジン、アルコール
- オープンクリーナー、漂白剤
- 住宅・家具用合成洗剤、強酸性や強アルカリ性の洗剤
- 可燃性ガス(LPGなど)入りスプレー洗剤
- スポンジたわしのかたい部分、研磨剤入りのナイロンたわし

うまく仕上がらないとき

調理を上手に仕上げるために食品をテーブルプレートの中央に寄せて置いてください。(→P.16)








	こんなときは	確認してください／直しかた
① うまく仕上がらない	オートメニューのとき、料理が加熱不足や加熱し過ぎになる料理のでき具合が悪い	<ul style="list-style-type: none"> ●仕上がり調節が正しく設定されているか確認してください。(→P.17) ●調理の手順、ラップのかけかた、食品の分量、付属品、容器の使いかたなどは正しいですか。本書で、もう一度確認してください。
	市販の料理ブックのオーブン調理や市販の生地を使うと上手にできないことがある	Webレシピ集の類似したメニューの温度と時間を参照して、手動調理で様子を見ながら加熱してください。 「ホームページからレシピ集を見る」(→P.52)
② ごはんのあたため	ごはんがあたたまらない仕上がりにむらが見られる	<ul style="list-style-type: none"> ●プラスチック製の容器に入れて、加熱していませんか。陶器・磁器(茶わんなど)に入れて加熱してください。 ●ふたやラップをしたまま加熱していませんか。ふたやラップをなどのおおいをしないで加熱してください。 ●ごはんの分量(重量)に合った大きさ、重さの容器(茶わんなど)に入れて加熱します。 ●2～4杯を同時にあたためるときは、同じ分量、同じ大きさの容器に入れ、テーブルプレートの中央に寄せて置き、加熱します。 ●ごはんがかたまりになっていませんか。かたまりになっていると中まであたまらなくなります。加熱前にごはんをかるくほぐします。
	ごはんが熱くなり過ぎる	<ul style="list-style-type: none"> ●ふたやラップをしたまま加熱していませんか。ふたやラップをなどのおおいをしないで加熱してください。 ●ごはんの分量(重量)に対して、大き過ぎる容器を使っていませんか。 ●①ごはん・おかず仕上がり調節[やや弱]で加熱してください。
	ごはんがぱさつく	<ul style="list-style-type: none"> ●長期間保存した物は乾燥や冷凍焼けしてうまく仕上がりにません。 ●①ごはん・おかず仕上がり調節[やや弱]で、加熱するときは加熱前に霧を吹いてから加熱すると、しっとり仕上がります。
	③解凍あため で冷凍ごはんがあたたまらない仕上がりにむらが見られる	<ul style="list-style-type: none"> ●ラップの重なっている部分を下にして皿にのせ、加熱します。 ●プラスチック製の容器でふたをしたまま加熱していませんか。 ●使う容器(平皿)の大きさは、冷凍ごはんの分量に合った大きさの物を使います。 ●ごはんを冷凍するとき、ラップなどでぴったり密封します。1杯分、1人分(約150gくらい)に分け、厚みは2～3cmの四角形に作ります。(→P.25) ●2個を同時にあたためるときは、同じ分量、同じ大きさの物で加熱し、中央をあけるようにして並べ、重ねないでください。
	③解凍あため で冷凍ごはんが熱くなり過ぎる	<ul style="list-style-type: none"> ●ごはんの分量(重量)に対して、大き過ぎる容器を使っていませんか。 ●溶けかけていませんか。冷凍室から取り出して、すぐに加熱します。 ●長期間保存した物は乾燥や冷凍焼けしてうまく仕上がりにません。 ●オートメニューでぬるかった物を、オートメニューで追加加熱をしていませんか。 レンジ [600W] または レンジ [500W] で様子を見ながら、追加加熱をしてください。
③ 解凍	解凍不足でかたい	<ul style="list-style-type: none"> ●重量(グラム)を正しく設定しましたか。 ●半解凍(7～8分目解凍)状態に仕上げます。加熱後3～5分放置して自然解凍をすると、きれいに解凍されます。 ●脂身が上になっていませんか。かたまり肉に赤身と脂身があるときは、赤身を上にしてください。 ●食品(肉や刺身等)や使用用途(解凍後すぐ調理する場合か、生で食べる場合)によってオートメニューを使い分けます。 ●テーブルプレートの中央に置いて加熱します。


こんなときは		確認してください／直しかた
3 解凍(つづき)	食品が煮えた	<ul style="list-style-type: none"> ●重量(グラム)を正しく設定しましたか。 ●ラップでおおっていたり、袋にいれたまま加熱していませんか。 ●皿などの上ののせて加熱していませんか。発泡スチロール製のトレーにのせて加熱します。 ●食品の厚みや形が不均一だと、細い部分やうすい部分が煮えやすくなります。魚などは、尾にアルミホイルを巻きます。(→P.32) ●冷凍するときは、食品の厚みを2～3cm以下にそろえてください。 ●同時に2つ以上を解凍するときは、同じ種類の物で、同じ大きさの物にしてください。
	食品をあたためても熱くならない	<ul style="list-style-type: none"> ●ラップやふたなどのおおいをしたままで加熱していませんか。 ●食品が、金属容器かアルミホイルでおおわれていると加熱されません。 ●テーブルプレートの中央に置いて、加熱してください。 ●食品の種類や保存状態(常温、冷蔵、冷凍)によってオートメニューや「仕上がり調節」を使い分けます。(→P.17、22)
4 お総菜のあたため	食品をあたためると熱くなり過ぎる	<ul style="list-style-type: none"> ●ラップやふたなどのおおいをしたままで加熱していませんか。 ●あたためる食品の量が少な過ぎませんか。100g以上にしてください。 ●オートメニューでぬるかった物を、オートメニューで追加加熱していませんか。 [レンジ 600W]または[レンジ 500W]で様子を見ながら、追加加熱をしてください。 ●冷めかけた食品をオートメニューで加熱していませんか。 [レンジ 600W]または[レンジ 500W]で様子を見ながら加熱してください。
	カレーやシチューがあたたまらない	<ul style="list-style-type: none"> ●とろみがある物はラップなどでおおいをして仕上がり調節を[やや強]か[強]で加熱します。(→P.23) ●加熱前後で、よくかき混ぜます。
	冷凍保存した食品があたたまらない	<ul style="list-style-type: none"> ●[3解凍あたため]で加熱します。(→P.24、25) ●プラスチック製の容器に入れたり、容器を使わずに食品だけで加熱していませんか。仕上がり調節[やや強]か[強]に合わせるか、食品の分量(重量)に合った大きさ、重さの容器に入れて加熱してください。 ●テーブルプレートの中央に置いて、加熱してください。
	市販の冷凍食品をあたためたときに仕上げにむらが見られる	<ul style="list-style-type: none"> ●冷凍食品メーカーが表示している[レンジ 600W]または[レンジ 500W]の時間を目安にして、若干多めに加熱します。 ●テーブルプレートの中央に置いてあたたまり加減を見ながら加熱し、むらがある場合は加熱途中で食品の前後を入れかえて加熱します。 ●仕上がりがぬるかったときは、[レンジ 600W]または[レンジ 500W]で様子を見ながら、追加加熱をしてください。
5 牛乳のあたため	牛乳が熱くなり過ぎる	<ul style="list-style-type: none"> ●牛乳の分量(重量)が少なくありませんか。容器の大きさ(重量)に対して半分以下の量のときは[レンジ 500W]であたたまり加減を見ながら加熱してください。 ●冷めかけた牛乳を加熱していませんか。 ●オートメニュー番号や杯数を間違えていませんか。[1ごはん・おかず]で加熱すると熱くなりすぎます。
	牛乳がぬるい	<ul style="list-style-type: none"> ●牛乳の分量(重量)に対して、かるい容器を使っていませんか。 ●市販のパックのまま加熱していませんか。マグカップやコップにあけて加熱してください。 ●設定されている仕上がり調節の目盛を確認してください。 ●オートメニュー番号や杯数を間違えていませんか。[1ごはん・おかず]で加熱すると熱くなりすぎます。 ●テーブルプレートの中央に置いて加熱してください。2～4杯を一度に加熱するときは、分量(重量)を同じくらいにして、テーブルプレートの中央に寄せて並べ、加熱します。

うまく仕上がらないとき(つづき)

こんなときは		確認してください/直しかた
6 野菜	野菜がうまくゆであがらない	<ul style="list-style-type: none"> ●重量(グラム)を正しく設定しましたか。 ●野菜はラップで包んだままの状態、テーブルプレートの中央に直接置いて加熱します。 ●ラップの重なっている部分を上にして加熱するとうまくゆであがりません。 ●ほうれん草などの葉菜は100~300g、じゃがいもなどの根菜は100~600gまで加熱できます。分量が多過ぎたり、少な過ぎるとうまくできません。 ●メニューを間違えていませんか。「1ごはん・おかず」で加熱するとうまく仕上がらないです。葉菜・果菜は「9葉・果菜」(→P.33,34)で、根菜は「10根菜」で加熱してください。
	ほうれん草など葉菜が乾燥したり、むらがある	<ul style="list-style-type: none"> ●ほうれん草などの葉菜は、洗った後の水けを切らない状態で、ラップで包みます。 ●ラップで包むときは、茎と葉を交互にして重ね、しっかり包みます。ラップの包みかたがゆるかったり、広げた状態で包むと、うまくできません。
	ブロッコリーなどの果菜類を包むときは	ブロッコリーなどの果菜類は小房に分けて、ラップに重ならないようにすき間を作らないようにして並べ、ぴったりと包みます。
	じゃがいもやにんじんなどの根菜類が加熱し過ぎになった	<ul style="list-style-type: none"> ●ラップの重なった方を下にしてテーブルプレートの中央に置いて加熱します。 ●100g未満のオートメニューはできません。「レンジ 500W」で様子を見ながら加熱してください。
	じゃがいもが加熱不足になった	加熱後ラップを外さないですぐに上下を返して3~5分程そのまま置いて、蒸らします。
7 パン	トースト	<p>焼き色がつかない</p> <ul style="list-style-type: none"> ●途中で食パンを裏返しましたか。報知音が鳴ったら食パンを裏返してください。 ●トーストはトースターで焼くよりも時間がかかります。 ●「6トースト(裏返し)」で加熱します。(→P.30) ●「6トースト(裏返し)」で連続して焼いたときなど、加熱室の温度によって焼きが薄くなる場合があります。焼きが足りなかった方を上にして「グリル」(→P.39)で様子を見ながら加熱します。
	バターロール	<p>ふくらみが悪い</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生地の発酵は十分でしたか。発酵途中で生地の表面が乾いているときは霧吹きで水分を補ってください。 ●成形するとき生地をいじめていませんか。生地はていねいに扱ってください。 <p>焼き色にむらがある</p> <p>生地が大きさが異なると焼いたときにむらになります。</p>
	スポンジケーキ	<p>ケーキのふくらみが悪い</p> <ul style="list-style-type: none"> ●卵はしっかりと泡立てましたか。 ●ハンドミキサーや泡立て器の先から落ちる泡で「の」の字が書けるくらい、しっかりと泡立ててください。 ●粉を加えた後やバターを加えた後に、混ぜ過ぎていませんか。 <p>いくら泡立てても泡立ちが悪い</p> <ul style="list-style-type: none"> ●泡立てるときのボウルや泡立て器に、水分や油がついていると泡立ちが悪くなります。 ●卵は新鮮な物を使ってください。 <p>きめがあらく、粉がダマになって残る</p> <ul style="list-style-type: none"> ●小麦粉はよくふるいながら入れましたか。 ●小麦粉を加えてから、粉がなじむまでしっかり混ぜてください。 <p>ケーキがうまく焼けない</p> <ul style="list-style-type: none"> ●手動調理で焼く場合の温度と時間は、「手動調理の加熱時間の目安」(→P.44)を参照して焼いてください。 ●分量に合った大きさの型で焼いてください。
クッキー	<p>焼き色にむらがある</p> <p>生地の高さや厚みはそろえてください。</p>	
9 その他	もちは焼けるか	焼きもちは、ヒーターが遠いため上手に焼けません。
	丸身の魚は焼けるか	内臓を取り除いていない物は上手に焼けません。

お困りのとき

	現象	原因
① 動作しない	電源が入らない ボタンを押しても受け 付けない	<ul style="list-style-type: none"> ●電源プラグが抜けていませんか。 ●配電盤のヒューズ、またはブレーカーが切れていませんか。 ●液晶表示部に「」が表示されていますか。表示がない場合ドアを開閉してください。(待機時消費電力オフ機能が働いています。)(→P.14) ●ドアはきちんと閉まっていますか。 ●ドアを開け閉めし直しても正常になりませんか。 ●専用ブレーカーを切り、入れ直してドアを開閉しても正常になりませんか。
	加熱中に液晶表示部の表示が消え、本体の運転が停止し、電源が入らない	排気口や吸気口がふさがれたまま、加熱をしていませんか。本体の温度が異常に高くなると、自動で電源が切れます。本体が冷めてから、据え付けを確認し(→P.13)、排気口や吸気口をふさいでいる物を取り除き、電源を入れてください。
	食品がまったくあたたまらない	 を押し液晶表示部に「M」と「  」だけが表示されていませんか。店頭用の「デモモード」のため加熱できません。解除してください。(→P.50)
② 音	電源プラグを差し込むとわずかに「ジー」音がする	電子部品(フィルムコンデンサ)の振動音です。異常ではありません。
	加熱中「カチ、カチ」や「ジージー」と音がする	マイコンがレンジやヒーターなどの切りかえをするときのスイッチ音、インバータの作動音です。異常ではありません。
	レンジ加熱のとき「パチン」と音がする	ドアと加熱室の接触面に付着していた水滴がはじける音です。異常ではありません。
	オーブン、グリル加熱のとき「ポコッ」と音がする	高温のため、加熱室が膨張する音がすることがありますが、故障ではありません。
	調理終了後、しばらくすると「カチ」と音がする	調理終了後にドアを閉めてから10分過ぎたときに働く待機電力をオフするスイッチの音です。異常ではありません。
	終了音や操作音の音色が切りかわったり、無音になった	ドアを開閉して表示部に「  」を表示させてから  を3秒以上押すと終了音や操作音などの報知音の音色が変わります。「メロディー音」、「電子音」、「無音」の切りかえができます。(→P.14)
	電源プラグを差し込むとき「カチッ」と音がしたり、火花(スパーク)が出る	電源回路に充電するため故障ではありません。
調理が終了してもファンの風切り音がする 	加熱室の温度が高いときや繰り返して調理した後(積算調理時間10分以上の場合)、加熱途中で  を押したときやドアを開けたとき、電気部品を冷却するため冷却ファンが最大約10分間回転する場合がありますが、故障ではありません。冷却が終了すると冷却ファンは自動的に停止します。積算調理時間がリセットされるまでは、調理のたびに、冷却ファンが回ります。待機時消費電力オフ機能(→P.14)で電源が切れると積算調理時間がリセットされます。	





 マークがあるものはホームページからサンプル音を確認できます。スマートフォンやタブレット端末で右記のコードを読み取り、画面の案内に従って操作してください。

読み取れない場合は以下のURLを入力します。

https://kadenfan.hitachi.co.jp/support/range/manual_movie/sound/2019/rw.html






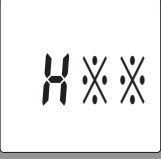

お困りのとき(つづき)

	現象	原因
③ 火花・煙・付着物	レンジのとき火花(スパーク)が出る	<ul style="list-style-type: none"> ●黒皿を誤って使用していませんか。 ●アルミホイルを使って加熱しませんでしたか。 ●加熱室壁面、ドアガラスなどに金属製の調理道具やアルミホイルが触れていませんか。 ●加熱室壁面やテーブルプレートなどに食品くずや油分がついていませんか。
	初めてオーブンを使ったとき煙がでた	加熱室壁面に油が付着しています。初めてお使いのときは、空焼き(脱臭)をして油を焼き切ってください。(→P.15)
	オーブン加熱中、加熱室から煙が出た	加熱室内壁面やテーブルプレートが汚れていたり、食品くずや油分がついていませんか。 かたく絞ったぬれ布きんでふき取ってください。
④ 水滴・庫内灯・ヒーター	加熱中、液晶表示部やドアがくもったり、水滴が落ちる	メニューによって食品から出た水分が水蒸気となり、液晶表示部やドアの内側がくもることがありますが故障ではありません。ドアの内側などに露がつき、床に落ちたときは、ふきんでふき取ってください。
	加熱室内に水滴が付着したり、溜まる	メニューによって食品から出た水蒸気が加熱室壁面に水滴として付着したり、加熱室底面に溜まることがあります。 水滴はこまめにふき取ってください。(→P.45)
	オーブン予熱中に庫内灯が消灯している	<p>「オーブン」予熱中は節電のため庫内灯を消灯しています。</p> <p>加熱室(庫内)の様子を見たいときは  を押してください。</p> <p>消灯するときは、もう一度  を押してください。</p>
	庫内灯の明るさが変わるときがある	断続運転のとき庫内灯の明るさが変わることがあります。 故障ではありません。
⑤ 設定・表示	液晶表示部にMと表示されている(「デモモード」になっている)	<p><解除方法></p> <p>「」を3回押し、「」を1回押す」この操作を3回繰り返すと液晶表示部の「M」表示が消え加熱できます。</p>
	セットした温度が途中でかわることがある	「 オーブン 」のとき、250℃の運転時間は約5分です。 その後は自動的に210℃に切りかわります。
	予熱途中で加熱室温度の表示が10~20℃上下する	加熱室温度が安定するまで温度表示がかわります。故障ではありません。
	予熱設定温度が表示される前に予熱が終了した	電源電圧や室温等の影響で設定温度まで表示される前に予熱が終了することがあります。また、予熱開始より25分が経過すると予熱は終了します。予熱が終わってそのままにしておくと、10分間予熱を継続した後、庫内灯が消灯したまま、設定した時間加熱します。
	残り時間が途中でかわることがある	オートメニューのとき、料理を上手に仕上げるため加熱途中で残りの加熱時間がかわることがあります。
	ドアを開けると加熱が取り消される	オートメニューでは残りの加熱時間を表示していないときにドアを開けると、加熱が取り消されます。

	現象	原因
⑥ その他	ドア部に食品の汚れや調味料が付着した	すぐに汚れをふき取ってください。 そのまま放置すると変色、変質などの原因になります。
	ドアから蒸気がもれる	少量の蒸気が出ることはありますが、異常ではありません。
	加熱室内壁にシミがついている	加熱室内のお手入れはこまめに行ってください。(→P.45) 加熱室内にシミがついても性能上問題ありません。

お知らせ表示が出たとき

「C※※」が表示されるときは下表を確認してください。繰り返し表示される場合は、お買い上げの販売店に修理を依頼してください。ご不明な点は「修理のご依頼や修理に関するご相談窓口」にご相談ください。(→P.55)

表示例	原因・お知らせ内容	直し方
「C05」が表示される 	加熱室が熱いため、加熱できません。 (例：調理終了後や「脱臭」終了後、まだ加熱室が熱いうちに ① ごはん・おかずや ③ 解凍あたためを使った。)	ドアを開けると「C05」が消えて「冷却中」が表示します。冷却ファンが自動的に停止し、「冷却中」表示が消えるまでドアを開いて、十分に冷却します。または「とけり」を押して、手動調理(レンジ加熱)(→P.35~37)で様子を見ながらあたためます。
「C18」が表示される 	機械室内部の温度が高くなり過ぎたため、保護装置が働いて運転を停止しました。	運転を停止した状態でしばらくおき、本体を冷ましてから調理を再開してください。
「冷却中」が表示される 	機械室内部の冷却のため冷却ファンが回転しています。表示中は電源プラグを抜かないでください。 表示中も続けて調理できます。一部のメニュー(茶わん蒸し、発酵など)は加熱室内の温度が高いとうまく仕上がりにません。加熱室を冷ましてから調理してください。	加熱室の温度が高いときや繰り返して調理した後(積算調理時間10分以上の場合)、加熱途中で「とけり」を押したときやドアを開けたとき、電気部品を冷却するため冷却ファンが最大約10分間回転する場合がありますが故障ではありません。冷却が終了すると冷却ファンは自動的に停止します。待機時消費電力オフ機能(→P.14)で電源が切れると積算調理時間がリセットされます。
「H※※」が表示される  <small>※※は2けたの数字を表示します。</small> H※※の表示例 	<ul style="list-style-type: none"> ● 外来ノイズなどの影響による一時的な誤動作や機械室内の異常を検出した際などに運転を停止します。 ● 部品の故障表示 	「とけり」を押します。または電源プラグを抜いて、差し込み直した後、ドアを開閉し、もう一度電源を入れてください。「H※※」の表示は消えます。 「H※※」が繰り返し表示される場合は、お買い上げの販売店に修理を依頼してください。ご不明な点は「修理のご依頼や修理に関するご相談窓口」にご相談ください。(→P.55)

ホームページからレシピ集を見る

目的別にレシピを検索できる他、「取扱説明書」をご覧ください。



マカロニグラタン

①コードを読み取る



②画面の案内に従って操作する



画面イラストはイメージです。
実際とは異なることがあります。

コードが読み取れない場合は、URL を入力して表示される画面の案内に従ってください。

- スマートフォン用 <https://kadenfan.hitachi.co.jp/range/recipe/mro-he4v/top.html?manual>
- パソコン用 <https://kadenfan.hitachi.co.jp/range/recipe/mro-he4v/index.html>

標準計量カップ・スプーンでの質量表 (単位 g) (1mL=1cc)

- 本書に使用している計量カップ・スプーンでの質量(重量)は右表の通りです。
- Webレシピ集本文に記載している[]はオートメニューや手動調理の加熱の種類を示します。
- 卵は大きさの表記がないものは中サイズです。

標準計量カップ・スプーンでの質量表 (単位 g) (1mL = 1cc)

食品名	計量			食品名	計量		
	小さじ (5mL)	大きじ (15mL)	カップ (200mL)		小さじ (5mL)	大きじ (15mL)	カップ (200mL)
水・酢・酒	5	15	200	トマトピューレ	5	15	210
しょうゆ・みりん・みそ	6	18	230	ウスターソース	6	18	240
食塩	6	18	240	マヨネーズ	4	12	190
砂糖(上白糖)・片栗粉	3	9	130	粉チーズ	2	6	90
小麦粉(薄力粉)	3	9	110	生クリーム	5	15	200
小麦粉(強力粉)	3	9	110	油・バター・ラード	4	12	180 ラードは170
パン粉	1	3	40	ココア	2	6	90
粉ゼラチン	3	9	130	白米	-	-	160
トマトケチャップ	5	15	230	炊きたてごはん	-	-	120

■加熱時間

- 約5分: 5分を目安にして加熱します。
- 5~10分: 5~10分を目安にして加熱します。
- Webレシピ集に使われる単位は、次の通りです。
容量: 1mL(ミリリットル) = 1cc(シーシー)
- 加熱時間の目安は、食品温度(常温)を基準にしています。
- 料理写真は調理後盛りつけた物です。

「日立の家電品お客様サポート」の利用

スマートフォンやパソコンで所有する家電品を一覧管理でき、お知らせやサポート情報などが入手できます。

サポート内容

- レシピ検索
- 家電品の登録※1
- お知らせ
- よくあるご質問
- お問い合わせ

①コードを読み取る



②画面の案内に従ってお客様サポートの利用や家電品の登録※1を行う



※1 お客様サポートへの会員登録が必要です。(無料)
保証書に記載されている製造番号を入力してください。

- コードが読み取れない場合は、URL を入力して表示される画面の案内に従ってください。
<https://kadenfan.hitachi.co.jp/my/>
- ご利用の環境によっては、コードの読み取り、ページの表示ができない場合があります。
- ご利用の際は、通信費などの費用がかかります。
- ホームページ掲載は、予告なく中止することがあります。

MEMO

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

保証とアフターサービス (よくお読みください)

★本体内部には高圧配線がしてありますので、ご家庭での修理はおやめください。

保証書 (別添)

保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのあと、大切に保管してください。

尚、保証期間内でも次の場合には原則として有料修理にさせていただきます。

- (イ) 使用上の誤り、または改造や不当な修理による故障及び損傷。
- (ロ) お買い上げの後の取り付け場所の移動、落下、輸送等による故障及び損傷。
- (ハ) 火災、地震、風水害、落雷、その他天災地変、塩害、公害、ガス害(硫化ガスなど)や異常電圧、指定外の使用電源(電圧、周波数)による故障及び損傷。
- (ニ) 一般家庭用以外《例えば業務用等への長時間使用及び車両(車載用を除く)、船舶への搭載》に使用された場合の故障及び損傷。

●保証期間は、お買い上げの日から1年です。ただし、マグネトロンは2年です。

補修用性能部品の保有期間

オープンレンジの補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

補修用性能部品とは、その商品の機能を維持するために必要な部品です。

部品について

修理の際、弊社の品質基準に適合した再利用部品を使用することがあります。

修理のために取り外した部品は、特段のお申し出がない場合は、弊社にて引き取らせていただきます。

ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店または、「修理のご依頼や修理に関するご相談窓口」(→P.55)にお問い合わせください。

ご転居されるときは

ご転居によりお買い上げの販売店のアフターサービスを受けられなくなる場合は、前もって販売店にご相談ください。ご転居先での日立の家電品取扱店を紹介させていただきます。

●このオープンレンジは、電源周波数が50Hz・60Hzどちらの地域でもご使用になれます。

(部品交換は必要ありません。)

●ご転居されたり、移動したりした場合には、販売店または電気工事店に依頼して、アースの取り付け直しを行ってからご使用ください。(→P.55)

修理を依頼されるときは **出張修理**

「お困りのとき」「お知らせ表示が出たとき」(→P.49~51)に従って調べていただき、なお異常のあるときは、ご使用を中止し、電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご相談ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。

保証書の規定に従って、修理させていただきます。

保証期間中が過ぎているときは

修理して使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

連絡していただきたい内容


品名	日立オープンレンジ
型式	(銘板に書いてあります)
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	(できるだけ具体的に)
ご住所	(付近の目印等も併せてお知らせください)
お名前	
電話番号	
訪問ご希望日	

※銘板は本体右側面にあります。

修理料金のしくみ

修理料金=技術料+部品代+出張料で構成されています。

技術料	診断、部品交換、調整、修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器などの設備費、一般管理費などが含まれます。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材などを含む場合があります。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

<p>愛情点検</p> 	<p>●長年ご使用のオーブンレンジの点検を！</p>	
	<p>ご使用の際、このような症状はありませんか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ●電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。 ●ドアに著しいガタや変形がある。 ●スタートボタンを押しても食品が加熱されない。 ●自動的に切れないときがある。 ●焦げくさい臭いがしたり。運転中に異常な音や火花（スパーク）が出る。 ●オーブンレンジにさわるとビリビリと電気を感じることもある。 ●その他の異常や故障がある。 	<p>ご使用中止</p> <p>このような症状のときは、故障や事故防止のため、コンセントから電源プラグを抜いて販売店に点検・修理をご相談ください。</p>

この製品の使いかた・お手入れ・修理などは、お買い上げの販売店へご相談ください
 なお、転居されたり、贈り物で頂いたものの修理などで、ご不明な点は下記窓口にご相談ください。
 ※下記窓口の内容は、予告なく変更させていただく場合がございます。

商品情報やお取り扱いに関するご相談窓口

- お電話の前に！・「よくあるご質問」をホームページでご紹介しております。
- ・本取扱説明書の「お困りのとき」もご覧ください。

日立家電品 よくあるご質問 **検索** https://kadenfan.hitachi.co.jp/support/q_a/

TEL	0120-3121-11	<p>■受付時間：9:00-17:30（月～土）、9:00～17:00（日、祝日） 年末年始は休ませていただきます。 ≪発信者番号通知のお願い≫ 「非通知」設定をされているお客様は、 初めに「186」をダイヤルしておかけください。</p>
携帯電話・PHSから	050-3155-1111（有料）	
(FAX)	0120-3121-34	

修理のご依頼や修理に関するご相談窓口

スマートフォンやタブレットから

- ①コードを読み取る ② **出張修理のWeb受付** ボタンから入力画面へ ③製品型式など必要情報を入力



コードが読み取れない場合やパソコンからは ●検索からアクセス **日立家電修理WEB 検索**

<https://kadenfan.hitachi.co.jp/afterservice/repair.html>

オペレータとの通話をご希望の場合は

TEL	0120-312-168	<p>■受付時間：9:00-18:00（月～土）、9:00～17:00（日、祝日） ≪発信者番号通知のお願い≫ 「非通知」設定をされているお客様は、 初めに「186」をダイヤルしておかけください。</p>
携帯電話・PHSから	0570-003-168（有料）	
(FAX)	0120-3121-87	

- ご相談・ご依頼いただいた内容によっては、弊社のグループ会社に個人情報を提供し、対応させていただくことがあります。
- 修理をご依頼いただいたお客様へ、アフターサービスに関するアンケートハガキを送付させていただくことがあります。

部品のご購入は、商品お買い上げのお店、お近くの日立のお店（お取り寄せ）または下記の「パーツショップ」へご相談ください。
 日立の家電消耗品・部品直販「パーツショップ」 <https://parts.hitachi-cm.com/pshop/>

保証とアフターサービス
 コール相談窓口

この製品は、日本国内家庭用です。電源電圧や電源周波数の異なる海外では使用できません。また、アフターサービスもできません。

仕様

型	式	MRO-HE4V
電	源	交流100V、50Hz-60Hz共用
電子レンジ	消費電力	1,450W
	高周波出力	1,000W※1、800W、600W、500W、200W相当、100W相当
	発振周波数	2,450MHz
グリル		消費電力1,340W（ヒーターのみ1,300W）
オープン		消費電力1,340W（ヒーターのみ1,300W）
温度調節範囲		発酵、100~210℃、250℃ 250℃の運転時間は約5分です。その後は自動的に210℃に切りかわります。
外形寸法		幅483×奥行388（433※2）×高さ330mm
加熱室有効寸法		幅295×奥行316×高さ220mm
総庫内容量		23L
質量（重量）		約12.5kg
電源コードの長さ		約1.4m
年間消費電力量の目安※3		
区分名		B
電子レンジ機能の年間消費電力量		62.4kWh/年
オープン機能の年間消費電力量		11.0kWh/年
年間待機時消費電力量		0.0kWh/年※4
年間消費電力量		73.4kWh/年

※1 高周波出力1,000Wは短時間高出力機能(最大3分間)です。この機能はオートメニューのあたためなどの限定したメニューにのみ働きます。

※2 () 内は、ハンドルを含む奥行寸法です。

※3 年間消費電力量(kWh/年)は省エネ法・特定機器「電子レンジ」測定方法による数値です。区分名も同法に基づいています。

※3 実際にお使いになるときの年間消費電力量は周囲環境、使用回数、使用時間、食品の量によって変わります。

※4 コンセントに電源プラグを差した状態で、表示部が消灯しているときの消費電力は「0」Wです。(表示部「0」表示時2W)



このJ-Mossグリーンマークは、特定の化学物質（鉛・水銀・カドミウム・六価クロム・PBB（ポリブロモビフェニル）・PBDE（ポリブロモジフェニルエーテル））の含有率がJIS C 0950:2008による基準値以下であることを示しています。（規定の除外項目を除く）

詳しい情報は、当社のホームページでご覧いただけます。<https://www.hitachi-gls.co.jp/about/environment/jmoss/>

お客様メモ

後日のために記入しておいてください。

サービスを依頼されるとき、お役に立ちます。

購入店名

電話 () -

ご購入年月日

年 月 日

 日立グローバルライフソリューションズ株式会社

〒105-8410 東京都港区西新橋2-15-12 電話 (03) 3502-2111

1-E7555-1B

K20-FSP1

禁無断転載・不許複製 | KO (CR)